

総合研究報告書

関節リウマチ(RA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の  
妊娠、出産を考えた治療指針の作成

研究代表者 齋藤 滋 富山大学大学院医学薬学研究部産科婦人科 教授

研究要旨

自己免疫疾患は女性に多く、20～30歳代の生殖年齢にある女性の推定患者数はRAで22万人、SLEで約4万人、潰瘍性大腸炎で2.4万人、クローン病で0.5万人存在し、これらの女性が生物製剤や免疫抑制剤の出現により妊娠・出産を考えるように変化してきた。しかしながら、RAの臨床データベースより妊娠・出産を統計学的に計算したところ、期待出生率は同年代の女性に比し42.2%(95%CI:24.1-60.2%)である事が判明した。即ち、RA罹患患者が妊娠・出産を躊躇している事が判った。

そこで本研究班では膠原病内科、消化器内科、産婦人科、小児科、薬剤師のエキスパート27名が協議して、妊娠前からの管理、妊娠中ならびに出産後の管理指針を11のClinical Questionとして策定した。また、最新の知見を基に妊娠中ならびに授乳中に投薬可能な薬剤一覧を作成した。これらの指針は日本炎症性腸疾患学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会、日本母性内科学会、日本小児リウマチ学会、日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児医学会、日本新生児成育医学会、日本小児腎臓病学会に承認を受けた。これらの治療指針を全国の1,996の医療機関に発送し、さらに、PDF化して医療関係者ならびに患者に公開した(<https://ra-ibd-sle-pregnancy.org/>)。複数の診療科による横断的な妊娠前、妊娠中、出産後のSLE、RA、JIAやIBDに関する指針は、これまで類を見ず独創的である。

【研究分担者】

森信 暁雄、神戸大学大学院医学研究科 内科学  
講座 腎臓・免疫内科学 教授

村川 洋子、島根大学医学部内科学講座内科学第  
三 准教授

松井 聖、兵庫医科大学内科学リウマチ・膠原病科  
教授

渡辺 守、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研  
究科消化器病態学分野 教授

鈴木 康夫、東邦大学医療センター佐倉病院内科  
学講座消化器内科学分野 教授

牧野真太郎、順天堂大学医学部附属順天堂医院  
産婦人科 准教授

藤田 太輔、大阪医科大学産婦人科学 講師

川口 晴菜、大阪府立病院機構大阪母子医療セン  
ター産科 診療主任

武井 修治、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科  
小児科 客員研究員

宮前多佳子、東京女子医科大学附属膠原病リウマ  
チ痛風センター 講師

高橋 尚人、東京大学医学部附属病院小児・新生  
児集中治療部 教授

村島 温子、国立研究開発法人国立成育医療研究  
センター周産期・母性診療センター 主任副周産  
期・母性診療センター長

渥美 達也、北海道大学大学院医学研究院免疫・  
代謝内科学教室 教授

奥 健志、北海道大学病院内科II 助教

中島 研、国立成育医療研究センター 薬剤部 医  
薬品情報管理室長・医薬品情報管理主任

関根 道和、富山大学大学院医学薬学研究部疫  
学・健康政策学 教授

A.研究目的

自己免疫疾患は女性に多く、生殖年齢にある女  
性も多く存在する。最近のバイオ製剤の出現により、  
寛解率も向上し、医療関係者ならびに患者が妊娠・  
出産を前向きに考えるようになってきた。しかし、こ  
れまで妊娠前の管理や妊娠容認基準は、確定した  
ものがなく、また妊娠中に使用する薬剤についても、  
薬剤添付文書では明確な理由がなく、禁忌となる薬

剤が多く、臨床現場では困窮している状況であった。

また、妊娠前、妊娠後、分娩後に内科、整形外科、産婦人科、小児科、薬剤部が連携して治療する体制も不十分であった。

そこで、本研究では各診療分野で活躍している17名の研究分担者、10名の研究協力者の協力を得て、SLE、RA、JIA、IBD罹患女性患者の妊娠・出産を考えた治療指針(医療関係者を対象としたものと、患者を対象としたもの)を作成する事を目的とした。

## B.研究方法

4回の班会議を開催し、メール審議を繰り返し、11のClinical\_Question(CQ)と、その推奨文と解説文を作成した。これらの過程で最新の学術論文や、諸外国のガイドラインや治療指針を参考にした。担当者が作成した推奨文章をデルファイ法により総意形成を得、その結果を推奨文の推奨度、同意度に反映させた。

多施設共同データベース(NinJa)のデータを基に、RA女性患者からの出産率を同年代の女性と比較した。

(倫理面への配慮)

アンケート調査では患者の氏名、IDは消去して上方を収集した。研究計画は富山大学倫理委員会にて承認済(臨28-124)である。

## C.研究結果

### 1. 生殖可能RA罹患女性からの出産

生殖可能年齢(15-45歳)にある女性患者1,279人のうち、2015年に出産した女性は21名であった。2015年の人口動態統計から年齢をマッチさせた期待出生数は、49.8人であった事より、RA女性患者からの出産は、一般女性の42.2%(95%CI:24.1-60.2%)に留まる事が判明した。

### 2. 全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針の作成

11のClinical Questionにつき班員で作成した。  
CQ1:全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)、炎症性腸疾患(IBD)女性患者が妊娠の希望を伝えてきた際、どのように説明するべきか?

CQ2:全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)、炎症性腸疾患(IBD)患者の妊娠容認基準はあるか?

CQ3:全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)、炎症性腸疾患(IBD)と不妊症との関連性はあるか?

CQ4:全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)、炎症性腸疾患(IBD)は妊娠中・産褥期に寛解、増悪するか?

CQ5:全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)、炎症性腸疾患(IBD)の妊娠を管理する上で、行った方が良い検査と聴取すべき患者情報は何か?

CQ6:全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)、炎症性腸疾患(IBD)合併妊娠は、高次医療機関での産科管理が推奨されるか?

CQ7:全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)、炎症性腸疾患(IBD)患者の分娩方法は?

CQ8:生後の新生児のケアについて留意すべきことは何か?

CQ9:妊娠中の薬剤で禁忌であるものと、安全性が示されているものは何か?

CQ10:生物学的製剤使用時の注意点は?

CQ11:薬剤使用中の授乳について

これらのCQの推奨文ならびに解説文を作成し、推奨度/同意度も付記した。またすべての項目につき、患者が理解できるように平易な文章に改め、患者を対象としたCQも作成した。

さらに、妊娠前チェックリスト(患者用)ならびに医療者用を作成し、妊娠許容状況であれば、主治医に相談できるようにした。

これらを冊子化し、全国の産婦人科、内科、リウマチ科、膠原病内科、整形外科、消化器内科(IBD)、消化器外科(IBD)、小児科の医療機関に送付するとともに、ホームページ

(<https://ra-ibd-sle-pregnancy.org/>)を開設し、広く利用していただけるようにした。

また、本治療指針を日本炎症性腸疾患学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会、日本母性内科学会、日本小児リウマチ学会、日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児医学会、日本新生児成育医学会、日本小児腎臓病学会の9学会より承認していただいた。

## D. 考察

このような内科(リウマチ科、自己免疫/アレルギー科、消化器内科、母性内科)、整形外科、産婦人科、小児科、薬剤部からの総合的な治療指針は初めてであり、横断的立場から従来にないような治療指針が出来上がった意義は大きい。最近、妊娠前に合併症を持つ女性が産婦人科を受診し、妊娠・出産に関する説明を希望する preconceptional visit が増えている。その際、本治療指針は大きく貢献するであろう。また、関連の診療科が妊娠前より連携を取る事により、良好な医療が提供されることになる。

また、妊娠前チェックリストも、ぜひとも活用していただきたい。このチェックリストにより患者自らが妊娠できると自覚する事の意義は大きい。妊娠中ならびに授乳中の薬剤については、大きな制限があったが、使用経験が増し、その安全性についての知見が積み重なってきている。経胎盤的移行や乳汁中への移行も検討した上で、現時点における安全性を考えた薬剤投与で禁忌薬品、慎重投与薬品、比較的安全性が証明されている薬剤に分類して臨床的に判りやすく分類したため、今後、本治療指針は広く利用されていくと思われる。また広く活用してもらうために、内容をホームページ(<https://ra-ibd-sle-pregnancy.org/>)に掲載したところ、1ヶ月で約1,000のアクセスがあり、一定の反響があった事も確認された。

## E. 結論

11 の Clinical Question に基づき、SLE、RA、JIA、IBD の罹患女性の妊娠・出産を考えた治療指針が発刊された。関連 9 学会の承認も得られたため、臨床現場で本書が利用され、適切な管理がなされ、出産数の増加に繋がる事が望まれる。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1) Yoneda S, Yoneda N, Shiozaki A, Yoshino O, Ueno T, Niimi H, Kitajima I, Tamura K, Kawasaki Y, Makimoto M, Yoshida T, Saito S. 17OHP-C in patients with spontaneous preterm labor and intact membranes: is there an effect according to the presence of intra-amniotic inflammation?. *Am J Reprod Immunol*. in press.

- 2) Yoneda N, Yoneda S, Niimi H, Ito M, Fukuta K, Ueno T, Ito M, Shiozaki A, Kigawa M, Kitajima I, Saito S. Sludge reflects intra-amniotic inflammation with or without microorganisms. *Am J Reprod Immunol*. 2018 ;79(2).
- 3) Saito S, Shima T, Nakashima A. Immunological maladaptation. Springer 2018. (Edited by Saito S. Preeclampsia; Part IV; Chapter 4:65-84).
- 4) Yoneda S, Yoneda N, Fukuta K, Shima T, Nakashima A, Shiozaki A, Yoshino O, Kigawa M, Yoshida T, Saito S. In which preterm labor-patients is intravenous maintenance tocolysis effective? *J. Obstet. Gynaecol. Res*. 2018; 44(3): 397-407.
- 5) Yoshino O, Yamada-Nomoto K, Kobayashi M, Andoh T, Hongo M, Ono Y, Hasegawa-Idemitsu A, Sakai A, Osuga Y, Saito S. Bradykinin system is involved in endometriosis-related pain through endothelin-1 production. *Eur J Pain*. 2018; 22: 501-510.
- 6) Ogawa K, Urayama K Y, Tanigaki S, Sago H, Sato S, Saito S, Morisaki N. Association between very advanced maternal age and adverse pregnancy outcomes: a cross sectional Japanese study. *BMC Pregnancy and Childbirth*. 2017; 17: 349.
- 7) Yamada-Nomoto K, Yoshino O, Akiyama I, Iwase A, Ono Y, Nakamura T, Harada M, Nakashima A, Shima T, Ushijima A, Osuga Y, Chang RJ, Shimasaki S, Saito S. PAI-1 in granulosa cells is suppressed directly by statin and indirectly by suppressing TGF- and TNF- in mononuclear cells by insulin-sensitizing drugs. *Am J Reprod Immunol*. 2017 ;78(1).
- 8) Takahashi H, Ohkuchi A, Kuwata T, Usui R, Baba Y, Suzuki H, Chaw Kyi TT, Matsubara S, Saito S, Takizawa T. Endogenous and exogenous miR-520c-3p modulates CD44-mediated extravillous trophoblast invasion. *Placenta*. 2017;50: 25-31.
- 9) Saito S, Nakabayashi Y, Nakashima A, Shima T, Yoshino O. A new era in reproductive medicine: consequences of third-party oocyte donation for maternal and fetal health. *Semin Immunol*. 38:687-697, 2016.

- 10) Yoneda S, Shiozaki A, Yoneda N, Ito M, Shima T, Fukuda K, Ueno T, Niimi H, Kitajima I, Kigawa M, Saito S. Antibiotic therapy increases the risk of preterm birth in preterm labor without intra-amniotic microbes, but may prolong the gestation period in preterm labor with microbes, evaluated by rapid and high sensitive PCR system. *Am J Reprod Immunol.* 75(4):440-450, 2016.
- 11) Yoneda N, Yoneda S, Niimi H, Ueno T, Hayashi S, Ito M, Shiozaki A, Urushiyama D, Hata K, Suda W, Hattori M, Kigawa M, Kitajima I, Saito S. Polymicrobial Amniotic Fluid Infection with Mycoplasma/Ureaplasma and Other Bacteria Induces Severe Intra-Amniotic Inflammation Associated with Poor Perinatal Prognosis in Preterm Labor. *Am J Reprod Immunol.* 75: 112-125. 2016.
- 12) Saito S, Shima T, Nakashima A, Inada K, Yoshino O. Role of paternal antigen-specific Treg cells in successful implantation. *Am J Reprod Immunol.*75:310-316, 2016.
- 13) Nakabayashi Y, Nakashima A, Yoshino O, Shima T, Shiozaki A, Adachi T, Nakabayashi M, Okai T, Kushima M, Saito S. Impairment of the accumulation of decidual T cells, NK cells, and monocytes, and the poor vascular remodeling of spiral arteries, were observed in oocyte donation cases, regardless of the presence or absence of preeclampsia. *J Reprod Immunol.* 114: 65-74, 2016.
- 14) 齋藤 滋, 森信 暁雄, 村川洋子, 松井 聖, 渡辺 守, 鈴木康夫, 牧野真太郎, 藤田太輔, 川口晴菜, 武井修治, 宮前多佳子, 高橋尚人, 村島温子, 渥美達也, 奥 健志, 中島 研, 関根道和. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)「関節リウマチ(RA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針の作成」研究班(研究代表者 齋藤 滋).「全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)、若年性特発性関節炎(JIA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針」.2018年3月.
- 15) 稲田貢三子, 島 友子, 中島彰俊, 齋藤 滋. 018 妊娠とサイトカイン. *周産期医学*.2016;46:56-59.
- 16) 齋藤 滋. 制御性 T(Treg)細胞と妊娠維持. *炎症と免疫*. 2016;24:61-66.
- 17) 稲田 貢三子, 齋藤 滋. I. ハイリスク妊娠の抽出 不育症. *産婦人科の実際*. 2016;65:1121-1129.
- 18) 塩崎有宏, 齋藤 滋. 腸内細菌と妊娠・出産. *診断と治療*. 2016;104:175-180.
- 19) Onishi A, Otsuka Y, Morita N, Morinobu A. Focal myositis diffusely involving multiple masticatory muscles. *Scand J Rheumatol.* 2018:1-2. in press.
- 20) Yamamoto T, Kasagi S, Kurimoto C, Imanishi T, Hayashi N, Morinobu A, Saegusa J. Claviform aspergillus-related vegetation in the left ventricle of a patient with systemic lupus erythematosus. *J Clin Ultrasound.* 2018;46(3):231-232.
- 21) Sendo S, Saegusa J, Okano T, Takahashi S, Akashi K, Morinobu A. CD11b+ Gr1dim Tolerogenic Dendritic Cell-like Cells are Expanded in Interstitial Lung Disease in SKG Mice. *Arthritis Rheumatol.* 2017;69(12):2314-2327.
- 22) Takahashi S, Saegusa J, Sendo S, Okano T, Akashi K, Irino Y, Morinobu A. Glutaminase 1 plays a key role in the cell growth of fibroblast-like synoviocytes in rheumatoid arthritis. *Arthritis Res Ther.* 2017;19(1):76.
- 23) Okano T, Saegusa J, Nishimura K, Takahashi S, Sendo S, Ueda Y, Morinobu A. 3-bromopyruvate ameliorate autoimmune arthritis by modulating Th17/Treg cell differentiation and suppressing dendritic cell activation. *Sci. Rep.* 2017;7:42412.
- 24) Akashi K, Saegusa J, Nakamachi Y, Nakazawa T, Kumagai S, Morinobu A. Hepatitis B Virus Reactivation Following Salazosulfapyridine Monotherapy in a Patient with Rheumatoid Arthritis. *Intern Med.* 2016;55(10):1371-1373.
- 25) Akashi K, Saegusa J, Sendo S, Nishimura K, Okano T, Yagi K, Yanagisawa M, Emoto N, Morinobu A. Knockout of endothelin type B receptor signaling attenuates bleomycin-induced skin sclerosis in mice. *Arthritis Res Ther.* 2016;18(1):113.

- 26) Yamamoto T, Tanaka H, Kurimoto C, Imanishi T, Hayashi N, Saegusa J, Morinobu A, Hirata KI, Kawano S. Very early stage left ventricular endocardial dysfunction of patients with hypereosinophilic syndrome. *Int J Cardiovasc Imaging*. 2016;32(9):1357-1361.
- 27) Morinobu A, Tanaka S, Nishimura K, Takahashi S, Kageyama G, Miura Y, Kurosaka M, Saegusa J, Kumagai S. Expression and Functions of Immediate Early Response Gene X-1(IEX-1) in Rheumatoid Arthritis Synovial Fibroblasts. *PLoS One*. 2016;11(10):e0164350.
- 28) Masuda Y, Fujiwara S, Kunisada M, Yamada H, Morinobu A, Nishigori C. Two cases of cytomegalovirus-related cutaneous ulcers indicating an ominous clinical prognosis. *Eur J Dermatol*. 2016;26(5):499-501.
- 29) Kageyama G, Okano T, Yamamoto Y, Nishimura K, Sugiyama D, Saegusa J, Tsuji G, Kumagai S, Morinobu A. Very high frequency of fragility fractures associated with high-dose glucocorticoids in postmenopausal women: A retrospective study. *Bone Rep*. 2016;6:3-8.
- 30) Okano T, Saegusa J, Nishimura K, Takahashi S, Senda S, Ueda Y, Morinobu A. 3-bromophruvate ameliorate autoimmune arthritis by modulating Th17/Treg cell differentiation and suppressing dendritic cell activation. *Sci Rep*. 2017;7:42412.
- 31) 森信 暁雄. 病態。「リウマチケア入門」. 神崎初美、三浦靖史編. メディカ出版. 大阪. pp18-23. 2017.
- 32) 森信 暁雄. 脊椎関節炎と仙腸関節炎。「脊椎脊髄の神経症候学」. 福武敏夫、徳橋泰明、坂本博昭編集. 三輪書店. 東京. pp149. 2017.
- 33) 森信 暁雄. [自己免疫疾患-Preclinical State から発症・早期診断まで] 病因にせまる 自己免疫疾患のエピジェネティクス(解説/特集). *医学のあゆみ*.2016;258(10): 915-918.
- 34) 三枝 淳、蔭山 豪一、森信 暁雄. 「IgG4関連疾患の最新情報」に寄せるメタボロームに着目した膠原病の新規治療法および診断法の開発(解説). *アレルギーの臨床*. 2016;36(13): 1292-1297.
- 35) Kaneko Y, Atsumi T, Tanaka Y, Inoo M, Kobayashi-Haraoka H, Amano K, Miyata M, Murakawa Y, Yasuoka H, Hirata S, Nagasawa H, Tanaka E, Miyasaka N, Yamanaka H, Yamamoto K, Takeuchi T. Comparison of adding tocilizumab to methotrexate with switching to tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis with inadequate response to methotrexate: 52-week results from a prospective, randomised, controlled study (SURPRISE study). *Ann Rheum Dis*. 2016;75(11):1917-1923.
- 36) 村川洋子. 特集:関節リウマチ update . 特論 妊娠, 授乳とリウマチ治療. *日本臨床*.2016;74(6):1035-1041.
- 37) 森山繭子、村川洋子. 妊婦に対する注意点と使用法. *リウマチ科*.2016;56(1):15-19.
- 38) 村川洋子. 抗リン脂質抗体症候群 antiphospholipid syndrome (APS). 山口 徹(監修). 今日の治療指針 2016 年版. 医学書院. 東京. 2016. P.888-889.
- 39) Matsui K, Maruoka M, Yoshikawa T, Hashimoto N, Nogami M, Sekiguchi M, Azuma N, Kitano M, Tsunoda S, Sano H. Assessment of 2012 EULAR/ACR new classification criteria for polymyalgia rheumatica in Japanese patients diagnosed using Bird's criteria. *Int J Rheum Dis*. 2018;21 ( 2):497-501. doi: 10.1111/1756-185X.13006.
- 40) Tamura M, Matsui K, Kobayashi Y, Ogita C, Tsuboi K, Kusakabe M, Azuma K, Abe T, Yoshikawa T, Sekiguchi M, Azuma N, Kitano M, Sano H. A case of eel collagen allergy. *Allergol Int*. 2018;67(1):138-140. doi: 10.1016/j.alit.2017.04.012.
- 41) Azuma N, Matsui K, Hashimoto N, Yoshikawa T, Sano H. Successful Switch to Golimumab for Eosinophilia and Skin Symptoms Related to Multiple Biologics in a Patient with Rheumatoid Arthritis. *Intern Med*. 2017;56(12):1585-1590.
- 42) Matsui K, Sano H. T helper 17 cells in primary Sjögren's Syndrome. *J.Clin.Med*. 2017;6:pil:E65, doi: 10.3390/jcm6070065.2017
- 43) Matsui K, Maruoka M, Yoshikawa T, Hashimoto N, Nogami M, Sekiguchi M, Azuma N, Kitano M, Tsunoda S and Sano H. Assessment of 2012

- EULAR/ACR New Classification Criteria for Polymyalgia Rheumatica in Japanese Patients Diagnosed using Bird's Criteria. *Int. J. Rheum. Disease*, in press.
- 44) Sekiguchi M, Fujii T, Matsui K, Murakami K, Morita S, Ohmura K, Kawahito Y, Nishimoto N, Mimori T, Sano H and ABROAD Study Investigators. Differences in Predictive Factors for Sustained Clinical Remission with Abatacept Between Younger and Elderly Patients with Biologic-naive Rheumatoid Arthritis: Results from the ABROAD Study. *J. Rheumatol.*2016;43(11):1974-1983.
- 45) 横山雄一, 松井 聖, 佐野 統. シェーグレン症候群における corticotropin-releasing hormone family の役割. *臨床免疫・アレルギー科*. 2017;67:366-371.
- 46) 松井 聖, 佐野 統. 動脈・静脈の疾患(下) 最新の診断・治療動向, 結節性多発動脈炎. *日本臨牀*.2017;75:957-962.
- 47) 松井 聖, 佐野 統. 腸内細菌と疾患の関係を探る, リウマチ性疾患と腸内細菌の関係を探る. *分子リウマチ治療*. 2017;10:144-148.
- 48) 松井 聖, 佐野 統. 関節痛をどう診るか, リウマチ性多発筋痛症・RS3PE 症候群. 成人病と生活習慣病. 2017;47:1139-1145.
- 49) 松井 聖. 1 疾患概念・疫学. 神崎初美, 三浦靖史 編. 最新知識と事例がいっぱい リウマチケア入門 - リウマチ治療はここまで変わった!. メディカ出版,大阪, 2017.P10-17.
- 50) 松井 聖, 野上みか, 橋本尚明, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 岩崎 剛, 佐野 統. 当科におけるリウマチ性多発筋痛症の臨床的特徴と治療の検討. *臨床リウマチ*.2016; 28:135-142.
- 51) Matsuoka K, Kobayashi T, Ueno F, Matsui T, Hirai F, Inoue N, Kato J, Kobayashi K, Kobayashi K, Koganei K, Kunisaki R, Motoya S, Nagahori M, Nakase H, Omata F, Saruta M, Watanabe T, Tanaka T, Kanai T, Noguchi Y, Takahashi KI, Watanabe K, Hibi T, Suzuki Y, Watanabe M, Sugano K, Shimosegawa T. Evidence-based clinical practice guidelines for inflammatory bowel disease. *J Gastroenterol*. 2018;53: 305-353.
- 52) Suzuki Y, Iida M, Ito H, Nishino H, Ohmori T, Arai T, Yokoyama T, Okubo T, Hibi T. 2.4 g Mesalamine (Asacol 400 mg tablet) Once Daily is as Effective as Three Times Daily in Maintenance of Remission in Ulcerative Colitis: A Randomized, Noninferiority, Multi-center Trial. *Inflamm Bowel Dis*. 2017 ;23(5):822-832.
- 53) Komaki Y, Komaki F, Micic D, Yamada A, Suzuki Y, Sakuraba A. Pharmacologic therapies for severe steroid refractory hospitalized ulcerative colitis: A network meta-analysis. *J Gastroenterol Hepatol*. 2017 ;32(6):1143-1151.
- 54) Yokoyama T, Ohta A, Motoya S, Takazoe M, Yajima T, Date M, Nii M, Nagy P, Suzuki Y, Hibi T. Efficacy and Safety of Oral Budesonide in Patients with Active Crohn's Disease in Japan: A Multicenter, Double-Blind, Randomized, Parallel-Group Phase 3 Study. *Inflamm Intest Dis*. 2017 ;2:154-162, DOI:10.1159/000484047.
- 55) Hibi T, Panaccione R, Katafuchi M, Yokoyama K, Watanabe K, Matsui T, Matsumoto T, Travis S, Suzuki Y. The 5C Concept and 5S Principles in Inflammatory Bowel Disease Management. *J Crohns Colitis*. 2017;11(11):1302-1308.
- 56) Kobayashi T, Hisamatsu T, Suzuki Y, Ogata H, Andoh A, Araki T, Hokari R, Iijima H, Ikeuchi H, Ishiguro Y, Kato S, Kunisaki R, Matsumoto T, Motoya S, Nagahori M, Nakamura S, Nakase H, Tsujikawa T, Sasaki M, Yokoyama K, Yoshimura N, Watanabe K, Katafuchi M, Watanabe M, Hibi T. Predicting outcomes to optimize disease management in inflammatory bowel disease in Japan: their differences and similarities to Western countries . *INTESTINAL RESEARCH*.2017 :Published online.
- 57) Watanabe K, Matsumoto T, Hisamatsu T, Nakase H, Motoya S, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T. DIAMOND study group. Clinical and Pharmacokinetic Factors Associated With Adalimumab-Induced Mucosal Healing in Patients With Crohn's Disease. *Clin Gastroenterol Hepatol*. 2018;16(4):542-549.e1.
- 58) Komoto S , Matsuoka K , Kobayashi T , Yokoyama Y , Suzuki Y , Hibi T , Miura S , Hokari R. Safety and Efficacy of

- Leukocytapheresis in elderly patients with Ulcerative Colitis: -the impact of Leukocytapheresis in steroid-naive elderly patients . *Journal of Gastroenterology*, in press.
- 59) Motoya S, Watanabe M, Wallace K., Lazar A, Nishimura Y, Ozawa M, Thakkar R, Robinson A., Singh R, Mostafa N, Suzuki Y, Hibi T. Efficacy and safety of dose escalation to adalimumab 80 mg every other week in Japanese patients with Crohn's disease who lost response to maintenance therapy . *Intestinal Inflammatory Diseases*, in press.
- 60) Fukushima K, Sugita A, Futami K, Takahashi KI, Motoya S, Kimura H, Yoshikawa S, Kinouchi Y, Iijima H, Endo K, Hibi T, Watanabe M, Sasaki I, Suzuki Y. Surgical Research Group, the Research Committee of Inflammatory Bowel Disease, the Ministry of Health, Welfare and Labor of Japan. : Postoperative therapy with infliximab for Crohn's disease: a 2-year prospective randomized multicenter study in Japan . *Surg Today*, in press.
- 61) Naganuma M, Sugimoto S, Mitsuyama K, Kobayashi T, Yoshimura N, Ohi H, Tanaka S, Andoh A, Ohmiya N, Saigusa K, Yamamoto T, Morohoshi Y, Ichikawa H, Matsuoka K, Hisamatsu T, Watanabe K, Mizuno S, Suda W, Hattori M, Fukuda S, Hirayama A, Abe T, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Kanai T. INDIGO Study Group: Efficacy of Indigo naturalis in a Multicenter Randomized Controlled Trial of Patients with Ulcerative Colitis , *Gastroenterology*. 2018; 154(4) : 935-947.
- 62) Osamura A, Suzuki Y. Fourteen-year anti-TNF therapy in Crohn's disease patients: clinical characteristics and predictive factors . *Dig Dis Sci*. 2018; 63(1) : 204-208.
- 63) Hirai F, Andoh A, Ueno F, Watanabe K, Ohmiya N, Nakase H, Kato S, Esaki M, Endo Y, Yamamoto H, Matsui T, Iida M, Hibi T, Watanabe M, Suzuki Y, Matsumoto T. Efficacy of endoscopic balloon dilation for small bowel strictures in patients with Crohn's disease: A nationwide, multi-center, open-label, prospective cohort study. *J Crohns Colitis*. 2018; 12(4) : 394-401.
- 64) Arai T, Takeuchi K, Miyamura M, Ishikawa R, Yamada A, Katsumata M, Igarashi Y, Suzuki Y. Level of Fecal Calprotectin Correlates With Severity of Small Bowel Crohn's Disease, Measured by Balloon-assisted Enteroscopy and Computed Tomography Enterography. *Clin Gastroenterol Hepatol*. 2017;15(1):56-62.
- 65) Watanabe T, Ajioka Y, Mitsuyama K, Watanabe K, Hanai H, Nakase H, Kunisaki R, Matsuda K, Iwakiri R, Hida N, Tanaka S, Takeuchi Y, Ohtsuka K, Murakami K, Kobayashi K, Iwao Y, Nagahori M, Iizuka B, Hata K, Igarashi M, Hirata I, Kudo SE, Matsumoto T, Ueno F, Watanabe G, Ikegami M, Ito Y, Oba K, Inoue E, Tomotsugu N, Takebayashi T, Sugihara K, Suzuki Y, Watanabe M, Hibi T. Comparison of Targeted vs Random Biopsies for Surveillance of Ulcerative Colitis-Associated Colorectal Cancer. *Gastroenterology*. 2016;151(6):1122-1130.
- 66) Matsumoto T, Motoya S, Watanabe K, Hisamatsu T, Nakase H, Yoshimura N, Ishida T, Kato S, Nakagawa T, Esaki M, Nagahori M, Matsui T, Naito Y, Kanai T, Suzuki Y, Nojima M, Watanabe M, Hibi T; DIAMOND study group. Adalimumab Monotherapy and a Combination with Azathioprine for Crohn's Disease: A Prospective, Randomized Trial. *J Crohns Colitis*. 2016;10(11):1259-1266.
- 67) Komoto S, Motoya S, Nishiwaki Y, Matsui T, Kunisaki R, Matsuoka K, Yoshimura N, Kagaya T, Naganuma M, Hida N, Watanabe M, Hibi T, Suzuki Y, Miura S, Hokari R; Japanese study group for pregnant women with IBD. Pregnancy outcome in women with inflammatory bowel disease treated with anti-tumor necrosis factor and/or thiopurine therapy: a multicenter study from Japan. *INTESTINAL RESEARCH*. 2016;14(2):139-145.
- 68) Suzuki Y, Iida M, Ito H, Tachikawa N, Hibi T. Investigation of a High-Dose pH-Dependent-Release Mesalazine on the Induction of Remission in Active Crohn's Disease. *Drugs R D*. 2016;16(1):35-43.
- 69) Kobayashi T, Suzuki Y, Motoya S, Hirai F, Ogata H, Ito H, Sato N, Ozaki K, Watanabe M, Hibi T. First trough level of infliximab at week 2

- predicts future outcomes of induction therapy in ulcerative colitis-results from a multicenter prospective randomized controlled trial and its post hoc analysis. J Gastroenterol.2016;51(3):241-251.
- 70) Suzuki Y, Iida M, Ito H, Tachikawa N, Hibi T. Investigation of a High-Dose pH-Dependent-Release Mesalazine on the Induction of Remission in Active Crohn's Disease. Cross Mark.2016;16(1):35-43.
- 71) Suzuki Y, Iida M, Ito H, Saida I, Hibi T. Efficacy and safety of two pH-dependent-release mesalamine doses in moderately active ulcerative colitis: a multicenter, randomized, double-blind, parallel-group study. INTESTINAL RESEARCH. 2016;14(1):50-59.
- 72) 竹内 健、鈴木康夫. 炎症性腸疾患における新しい便中マーカー:カルプロテクチンを中心に. Mebio. 2017; 34 (7): 88 -95.
- 73) 竹内 健、鈴木康夫. 【特集:潰瘍性大腸炎の治療選択】潰瘍性大腸炎治療薬の特徴と適応 抗 TNF- 抗体製剤. 消化器の臨床. 2017; 20 (4):276 -281.
- 74) 鈴木康夫. 炎症性腸疾患 (IBD). 消化器の臨床. 2017; 20 (5):362 -368.
- 75) 竹内 健、新井典岳、鈴木康夫. 便中カルプロテクチンはバルーン小腸内視鏡と CT エンテログラフィーで確認した小腸クローン病の重症度と相関する. INTESTINE. 2017; 21 (3) :276 -278.
- 76) 鈴木康夫. 炎症性腸疾患治療最前線. Medical Tribune. 2017; 50 (14): 13.
- 77) 鈴木康夫. 対談:クローン病治療におけるステロイドの可能性-乾癬治療で示されたステロイドの有効性と安全性から考える-. 日経メディカル. 2017; (596) :59 -61.
- 78) 鈴木康夫. クローン病治療 プデソニド(ゼンタコート®). 臨床消化器内科. 2017; 33(1) :134-137.
- 79) 山田哲弘、鈴木康夫. 【特集:コモンな難病 炎症性腸疾患の薬物療法】IBD 治療薬の選び方、使い方カルシニューリン阻害薬. 月刊薬事. 2018; 60(1) :50-52.
- 80) 鈴木康夫. 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究. 平成 29 年度 総括・分担研究報告書 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管に関する調査研究:1 -5 , 2018
- 81) Takeuchi K, Miyamura M, Arai T, Ishikawa R, Yamada A, Suzuki Y (共著) : Current Progress of Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease: CT Enterography and CT Colonography in Inflammatory Bowel Disease. Advances in Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease. Hibi T, Hisamatsu T, Kobayashi T (Eds.). 43-56. Springer Japan, Tokyo, 2017.
- 82) Suzuki Y (分担) : Chapter 15 Endoscopy in the Management of Inflammatory Bowel Disease: Who, When, and How. Advances in Endoscopy in Inflammatory Bowel Disease. 155-162. Springer Japan , Tokyo, 2017.
- 83) 竹内 健、鈴木康夫. 貧血病 最新の診断・治療動向 .造血因子欠乏による貧血,消化器疾患における鉄欠乏性貧血診療の考え方.日本臨牀.2017;75(1):106-109.
- 84) 鈴木康夫. 特集:演奏性腸疾患 (IBD) の内科的治療、最新の話から【クローン病の治療における 5-ASA 製剤の役割と今後】. 消化器の臨床.2016;19(6):433-438.
- 85) 鈴木康夫. 特集:診断に迷う IBD の非典型例【IBD の典型像 - 臨床所見 -】. INTESTINE.2016;20(6):515-522.
- 86) 鈴木康夫. 特集:免疫疾患の trends&topics 2017【腸管型BD:抗TNF- 抗体でどこまで治るか?】. Mebio.2016;33(10):25-32.
- 87) 竹内 健、石川ルミ子、宮村美幸、山田哲弘、鈴木康夫. 特集:非腫瘍性消化管疾患の画像診断 beyond barium study and endoscopy【炎症性腸疾患の CT colonography(CTC)】. 画像診断.2016;36(10):1019-1027.
- 88) 竹内 健、鈴木康夫. 特集:潰瘍性大腸炎 - 明日から使える内科治療のコツと最新情報【各論】. モニタリング (2) CT colonography. INTESTINE.2016;20(4):392-397.
- 89) 樋口哲也、鈴木康夫. 炎症性腸疾患、Behcet 病の皮膚病変. 胃と腸.2016;51(8):1009-1018.
- 90) 竹内 健、宮村美幸、新井典岳、石川ルミ子、山田哲弘、岩佐亮太、佐々木大樹、勝俣雅夫、鈴木康夫. 大腸三次元 CT 炎症性腸疾患を中心に. 胃と腸.2016;51(7):891898.
- 91) 鈴木康夫. 質疑応答 Pro Pro プロからプロ

- へ,内科・消化器【炎症性腸疾患の患者が妊娠した際の治療薬使用:回答】. 週間日本医事新報.2016;4807:56-57.
- 92) 竹内 健, 鈴木康夫. 講座 IBD 治療のピットフォール第 10 回【クローン病の直腸狭窄病変手術のタイミングは?】.IBD Research. 2016;10(2):53-58.
- 93) 鈴木康夫.炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法の日本での位置づけ ステロイド・免疫抑制剤・生物学的製剤との関係について .日本アフェリシス学会雑誌.2016;32(2):82-87.
- 94) 鈴木康夫. 徹底解説! 抗 TNF- 抗体に関するギモンを解決!【抗 TNF- 抗体の効果減弱・二次無効に対する治療戦略】.薬局 別冊. 2016;67(6):57-63.
- 95) 竹内 健, 鈴木康夫. 実地医科が実践すべき診療のプロセス【クローン病小腸診断の現状と今後の展望】.Medical Practice.2016;33(5):745-748.
- 96) 竹内 健, 鈴木康夫.特集:クローン病治療の最前線【便中カルプロテクチンによる治療効果モニタリング】.INTESTINE.2016;20(2):191-195.
- 97) 鈴木康夫. 消化器疾患 Inflammatory Bowel Disease(Ulcerative Colitis/Crohn's Disease)【炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)】.今日の診療のためにガイドライン外来診療 2016.2016;16 版:417-420.
- 98) 鈴木康夫. 高齢者の IBD 治療.CLINICIAN.2016;63(646):155-161.
- 99) 鈴木康夫.特集:『早期大腸癌』からの 20 年, 『INTESTINE』からの今後 20 年(炎症分野)【クローン病診療の将来像】.INTESTINE.2016;20(1):86-90.
- 100) 鈴木康夫.第3章IBDの診断 1 潰瘍性大腸炎とクローン病の診断(総論). 日比紀文, 久松理一編. IBD を日常診療で診る. 羊土社. 東京. 41-50. 2017.
- 101) Miyamae T, Takei S, Itoh Y, Yamanaka H. Survey of non-pediatric rheumatologists among councilors of the Japan College of Rheumatology regarding transitional care. Mod Rheumatol. 2017; 27(6): 1047-1050.
- 102) 武井修治.小児期発症リウマチ性疾患の成人期移行.九州リウマチ.2017;37(1):6-10.
- 103) 武井修治. 慢性疾患患児の一生を診る:若年性特発性関節炎(少関節炎・多関節炎). 小児内科.2016;48(10):1662-1665.
- 104) 高橋尚人. サイトカインプロファイルによる周産期病態解析—自己免疫疾患母児および胎児・新生児血球貪食性リンパ組織球症—. 日本周産期新生児医学会誌. 2017; 52(5): 1320-1324.
- 105) 高橋尚人. 周産期と免疫. 周産期医学. 2017;47(12):1507-1512.
- 106) Kaneko K, Mishima S, Goto M, Mitsui M, Tanigaki S, Oku K, Ozawa N, Inoue E, Atsumi T, Sago H, Murashima A. Clinical feature and anti-phospholipid antibody profiles of pregnancy failure in young women with antiphospholipid antibody syndrome treated with conventional therapy. Mod Rheumatol. 2017 Oct 25:1-6. doi: 10.1080/14397595.2017.1386845. [Epub ahead of print]
- 107) Deguchi M, Yamada H, Sugiura-Ogasawara M, Morikawa M, Fujita D, Miki A, Makino S, Murashima A. Factors associated with adverse pregnancy outcomes in women with antiphospholipid syndrome: A multicenter study. J Reprod Immunol.2017;122:21-27.
- 108) Sugiura-Ogasawara M, Omae Y, Kawashima M, Toyo-Oka L, Khor SS, Sawai H, Horita T, Atsumi T, Murashima A, Fujita D, Fujita T, Morimoto S, Morishita E, Katsuragi S, Kitaori T, Katano K, Ozaki Y, Tokunaga K. The first genome-wide association study identifying new susceptibility loci for obstetric antiphospholipid syndrome. J Hum Genet.2017;62(9):831-838.
- 109) Amengual O, Forastiero R, Sugiura-Ogasawara M, Otomo K, Oku K, Favas C, Delgado Alves J, Žigon P, Ambrožič A, Tomšič M, Ruiz-Arruza I, Ruiz-Irastorza G, Bertolaccini ML, Norman GL, Shums Z, Arai J, Murashima A, Tebo AE, Gerosa M, Meroni PL, Rodriguez-Pintó I, Cervera R, Swadzba J, Musial J, Atsumi T. Evaluation of phosphatidylserine-dependent antiprothrombin antibody testing for the diagnosis of antiphospholipid syndrome: results of an international multicenter study. Lupus. 2017;26(3):266-276.
- 110) Tsuboi H, Sumida T, Noma H, Yamagishi K, Anami A, Fukushima K, Horigome H, Maeno Y, Kishimoto M, Takasaki Y, Nakayama M, Waguri

- M, Sago H, Murashima A. Maternal predictive factors for fetal congenital heart block in pregnant mothers positive for anti-SS-A antibodies. *Mod Rheumatol*. 2016;26(4):569-575.
- 111) 村島温子, 妊婦さんへの内科治療の考え方 母性内科と基礎知識. 診断と治療. 2017, 105, 1240-1246,
- 112) 成田一衛, 内田啓子, 甲斐平康, 安田宜成, 古家大祐, 和田隆志, 村島温子, 岩田恭宜, 関 博之, 水上 尚典, 守屋達美, 鈴木洋通, 和田雅樹, 剣持 敬, 松田昭彦, 福井次矢, 堀江重郎, 守山敏樹, 鶴屋 和彦, 川村和子, 日本腎臓学会学術委員会, 腎疾患患者の妊娠: 診療の手引き改訂委員会, 日本産科婦人科学会, 日本糖尿病学会, 日本高血圧学会, 日本小児科学会, 日本移植学会, 日本透析医学会腎疾患患者の妊娠診療ガイドライン 2017. 日本腎臓学会誌. 2017;59:955-1033.
- 113) 三島就子, 村島温子. 合併症妊娠の薬物療法. 周産期医学.2017;48:83-85.
- 114) 三島就子, 村島温子. 腎疾患患者の妊娠中薬物療法. リウマチ科. 2018;59:172-177.
- 115) 鈴木孝典, 林 泰佑, 小野 博, 前野泰樹, 堀米仁志, 村島温子. 母体抗 SS-A 抗体陽性の先天性完全房室ブロックの胎児における子宮内胎児死亡の危険因子. *Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery*. 2016;32:19-25.
- 116) 橋本就子, 村島温子. 妊娠希望患者における治療選択. 内科.2016;117(5):1203-1208.
- 117) Watanabe T, Oku K, Amengual O, Hisada R, Ohmura K, Nakagawa I, Shida H, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Atsumi T. Effects of statins on thrombosis development in patients with systemic lupus erythematosus and antiphospholipid antibodies. *Lupus*. in press.
- 118) Nakamura H, Oku K, Amengual O, Ohmura, K, Fujieda Y, Kato M, Bohgaki T, Yasuda S, Atsumi T. First-line, non-criterial antiphospholipid antibody testing for the diagnosis of antiphospholipid syndrome in clinical practice: a combination of anti-beta2-glycoprotein I domain I and phosphatidylserine-dependent antiprothrombin antibodies. *Arthritis Care Res (Hoboken)*. in press.
- 119) Atsumi T, Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Yasuda S, Yamanishi Y, Kita Y, Matsubara T, Iwamoto M, Shoji T, Togo O, Okada T, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T. Clinical benefit of 1-year certolizumab pegol (CZP) add-on therapy to methotrexate treatment in patients with early rheumatoid arthritis was observed following CZP discontinuation: 2-year results of the C-OPERA study, a phase III randomized trial. *Ann Rheum Dis*. 2017;76(8):1348-1356.
- 120) Sakano R, Saito K, Kamishima T, Nishida M, Horie T, Noguchi A, Kono M, Sutherland K, Atsumi T. Power Doppler signal calibration in the finger joint between two models of ultrasound machine: a pilot study using a phantom and joints in patients with rheumatoid arthritis. *Acta Radiol*. 2017;58(10):1238-1244.
- 121) Fukae J, Tanimura K, Isobe M, Kitano A, Henmi M, Nakai M, Aoki Y, Sakamoto F, Narita A, Ito T, Mitsuzaki A, Matsushashi M, Shimizu M, Kamishima T, Atsumi T, Koike T. Active synovitis in the presence of osteitis predicts residual synovitis in patients with rheumatoid arthritis with a clinical response to treatment. *Int J Rheum Dis*. 2017:1-6.
- 122) Mimori T, Harigai M, Atsumi T, Fujii T, Kuwana M, Matsuno H, Momohara S, Takei S, Tamura N, Takasaki Y, Ikeuchi S, Kushimoto S, Koike T. Safety and effectiveness of 24-week treatment with iguratimod, a new oral disease-modifying antirheumatic drug, for patients with rheumatoid arthritis: interim analysis of a post-marketing surveillance study of 2679 patients in Japan. *Mod Rheumatol*. 2017;27:755-765.
- 123) Yasuda S, Ohmura K, Kanazawa H, Kurita T, Kon Y, Ishii T, Fujieda Y, Jodo S, Tanimura K, Minami M, Izumiyama T, Matsumoto T, Amasaki Y, Suzuki Y, Kasahara H, Yamauchi N, Kato M, Kamishima T, Tsutsumi A, Takemori H, Koike T, Atsumi T. Maintenance Treatment using Abatacept with Dose Reduction after Achievement of Low Disease Activity in Patients with Rheumatoid Arthritis (MATADOR) – A prospective, multicenter,

- single arm pilot clinical trial. *Mod Rheumatol.* 2017;27:930-937.
- 124) Naoi T, Kameda T, Oku K, Ando A, Hayashi Y, Miyamoto M, Suzuki H, Kawakami T. Internal carotid artery occlusion and cerebral infarction in a case of juvenile systemic lupus erythematosus and positive for phosphatidylserine dependent antiprothrombin antibody (aPS/PT). *Neurology and Clinical Neuroscience.* 2017;5:68-70.
- 125) Hatano K, Kamishima T, Sutherland K, Kato M, Nakagawa I, Ichikawa S, Kawauchi K, Saitou S, Mukai M. A reliability study using computer-based analysis of finger joint space narrowing in rheumatoid arthritis patients. *Rheumatol Int.* 2017;37:189-195
- 126) Kono M, Kamishima T, Yasuda S, Sakamoto K, Abe S, Noguchi A, Watanabe T, Shimizu Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Atsumi T. Effectiveness of whole-body magnetic resonance imaging for the efficacy of biologic anti-rheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective pilot study. *Mod Rheumatol.* 2017;27:953-960.
- 127) Bertolaccin ML, Amengual O, Artim-Eser B, Atsumi T, de Groot PG, de Laat B, Devreese K, Giles I, Meroni PL, Borghi MO, Rahman A, Rand J, Regnault V, Kumar R, Tincani A, Wahl D, Willis R, Zuily S, Sanna G. Clinical and Prognostic Significance of Non-criteria Antiphospholipid Antibody Tests. In *Antiphospholipid Syndrome: Current Research Highlights and Clinical Insights* Edited by Doruk Erkan and Dr. Michael Lockshin. Publishers Springer Science and Business Media. 2017, p171-187.
- 128) Atsumi T, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Yasuda S, Yamanishi Y, Kita Y, Matsubara T, Iwamoto M, Shoji T, Okada T, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T. The first double-blind, randomised, parallel-group certolizumab pegol study in methotrexate-naive early rheumatoid arthritis patients with poor prognostic factors, C-OPERA, shows inhibition of radiographic progression. *Ann Rheum Dis.* 2016; 75(1):75-83.
- 129) Atsumi T, Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Kaneko Y, Atsumi T, Tanaka Y, Inoo M, Kobayashi-Haraoka H, Amano K, Miyata M, Murakawa Y, Yasuoka H, Hirata S, Nagasawa H, Tanaka E, Miyasaka N, Yamanaka H, Yamamoto K, Takeuchi T. Comparison of adding tocilizumab to methotrexate with switching to tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis with inadequate response to methotrexate: 52-week results from a prospective, randomised, controlled study (SURPRISE study). *Ann Rheum Dis.* 2016; 75(11):1917-1923.
- 130) Ishiguro N, Atsumi T, Harigai M, Mimori T, Nishimoto N, Sumida T, Takeuchi T, Tanaka Y, Nakasone A, Takagi N, Yamanaka H. Effectiveness and safety of tocilizumab in achieving clinical and functional remission, and sustaining efficacy in biologics-naive patients with rheumatoid arthritis: The FIRST Bio study. *Mod Rheumatol.* 2017;27(2):217-226.
- 131) Sakashita T, Kamishima T, Kobayashi Y, Sugimori H, Tang M, Sutherland K, Noguchi A, Kono M, and Atsumi T. Accurate quantitative assessment of synovitis in rheumatoid arthritis using pixel-by-pixel, time-intensity curve shape analysis. *Br J Radiol.* 2016;89(1061):20151000.
- 132) Sugiyama N, Kawahito Y, Fujii T, Atsumi T, Murata T, Morishima Y, Fukuma Y. Treatment Patterns, Direct Cost of Biologics, and Direct Medical Costs for Rheumatoid Arthritis Patients: A Real-world Analysis of Nationwide Japanese Claims Data. *Clin Ther.* 2016; 38(6):1359-75. e1.
- 133) Yasuda S, Shimizu Y Atsumi T. Brain MRI abnormalities defined as risks for poor prognosis in lupus patients with acute confusional state: Are they antibody mediated? *Mod Rheumatol.* 2016; 30:1.
- 134) Yasuda S. Presence of Antiphospholipid Antibodies as a Thrombotic Risk Factor in Connective Tissue Diseases and Idiopathic/immune Thrombocytopenic

- Purpura--Proposal for Altered Cut-off values for Better Prediction. Intern Med.2016;55(6):557-558.
- 135) Oku K, Amengual O, Hisada R, Ohmura K, Nakagawa I, Watanabe T, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S Atsumi T. Autoantibodies against a complement component 1 q subcomponent contribute to complement activation and recurrent thrombosis/pregnancy morbidity in anti-phospholipid syndrome. Rheumatology (Oxford).2016; 55(8):1403-1411.
- 136) Oku K, Amengual O, Kato M, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Sakamoto N, Ieko M, Norman GL, Atsumi T. Significance of fully automated tests for the diagnosis of antiphospholipid syndrome. Thromb Res.2016; 146:1-6.
- 137) Oku K, Nakamura H, Kono M, Ohmura K, Kato M, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Amengual O, Atsumi T. Complement and thrombosis in the antiphospholipid syndrome. Autoimmun Rev. 2016;15(10):1001-1004.
- 138) Otomo K, Amengual O, Fujieda Y, Nakagawa H, Kato M, Oku K, Horita T, Yasuda S, Matsumoto M, Nakayama KI, Hatakeyama S, Koike T, Atsumi T. Role of apolipoprotein B100 and oxidized low-density lipoprotein in the monocyte tissue factor induction mediated by anti-beta2 glycoprotein I antibodies. Lupus.2016; 25(12):1288-1298.
- 139) Kato M, Ospelt C, Kolling C, Shimizu T, Kono M, Yasuda S, Michel BA, Gay RE, Gay S, Klein K, Atsumi T. AAA-ATPase p97 suppress apoptotic and autophagy-associated cell death in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts. Oncotarget. 2016;7(39):64221-64232.
- 140) Fujieda Y, Amengual O, Matsumoto M, Kuroki K, Takahashi H, Kono M, Kurita T, Otomo K, Kato M, Oku K, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Maenaka K, Hatakeyama S, Nakayama KI, Atsumi T. Ribophorin II is involved in the tissue factor expression mediated by phosphatidylserine-dependent antiprothrombin antibody on monocytes. Rheumatology (Oxford).2016; 55(6):1117-1126.
- 141) Shimizu Y, Yasuda S, Kako Y, Nakagawa S, Kanda M, Hisada R, Ohmura K, Shimamura S, Shida H, Fujieda Y, Kato M, Oku K, Bohgaki T, Horita T, Kusumi I, Atsumi T. Post-steroid neuropsychiatric manifestations are significantly more frequent in SLE compared with other systemic autoimmune diseases and predict better prognosis compared with de novo neuropsychiatric SLE. Autoimmun Rev.2016;15(8):786-794.
- 142) Amengual O, Bertolaccini ML and Atsumi T. Laboratory Markers with clinical significance in the antiphospholipid Syndrome. In Antiphospholipid Syndrome in Systemic Autoimmune Diseases. Edited by Cervera R, Khamashta MA. 2016, Chapter 4, p47-70
- 143) Amengual O and Atsumi T. Pathogenesis of antiphospholipid syndrome. In Systemic lupus erythematosus, basic, applied and clinical aspects. Edited by George C Tsokos. Academic Press. 2016, Chapter 56, p487-92
- 144) 村島温子, 渥美達也, 井上永介, 大田えりか, 奥健志, 小澤伸晃, 金子 佳代, 後藤美賀子, 齋藤滋, 杉浦真弓, 関口将軌, 高橋尚人, 出口雅士, 中山雅弘, 野澤和久, 平井千裕, 藤田太輔, 松岡健太郎, 松木祐子, Amengual O, 三木明德, 光田信明, 森臨太郎, 山田秀人, 山本 亮, 横山健次, 和田芳直:「抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の診療ガイドライン」平成27年度日本医療研究開発機構成育疾患克服等総合研究事業「抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の治療及び予後に関する研究」研究班編、南山堂、東京、2016年、総76ページ.

## 2.学会発表

- 1) Saito S. The role of regulatory T cells for pregnancy. The 3rd Annual meeting of Korean Society of Reproductive Immunology (KSRI); 2016.12.17; College, Seoul, Korea. (Invited lecture)
- 2) Saito S. Pathophysiology of preeclampsia from the view point of immunological maladaptation. The 19th Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies (FAOPS); 2016.12. 1-4; Taipei, Taiwan. (Invited lecture)
- 3) Saito S. Fetomaternal and peripheral immune status in preeclamptic and normotensive

- oocyte donation cases. 20th World Congress meeting of the International Society for the Study of Hypertension in Pregnancy (ISSHP); 2016.10. 24-26; Sao Paulo, Brazil.
- 4) Saito S. Role of paternal antigens-specific Treg cells in successful implantation and pregnancy. Reproductive Immunology Satellite Meeting 2016 ; 2016.8.17-19; Cairns, Australia.
  - 5) Saito S. The pathophysiology of preterm birth from the view point of intestinal and vaginal microbiota. 13th Congress of the International Society for Immunology of Reproduction; 2016 .6.22-25; Erfurt, Germany.(Invited lecture)
  - 6) 齋藤 滋: 妊娠可能年齢の関節リウマチ女性の診療 産婦人科の立場から. アステラス製薬社内講演会. 2018.3.27, 富山.
  - 7) 齋藤 滋: 妊娠可能年齢の関節リウマチ女性の診療 産婦人科の立場から. Expert Interactions to the NEXT stage (NEXT). 2018.2.25, 東京.
  - 8) 齋藤 滋: テーマ: 妊娠と関節リウマチ『免疫から見た妊娠維持機構とその破綻』. Expert Interactions in Clinical Intelligence (EICI). 2017.12.9, 京都.
  - 9) 齋藤 滋: テーマ: 妊娠と関節リウマチ『免疫から見た妊娠維持機構とその破綻』. Expert Interactions in Clinical Intelligence (EICI). 2017.10.29, 大阪.
  - 10) 齋藤 滋: SLE、RA、IBD 合併妊娠についての最近の知見. 宮城リウマチフォーラム 2017. 2017.9.27, 仙台.
  - 11) 齋藤 滋: 成人病の素因は胎児(お腹の中の赤ちゃん)から発生しています. 射水市民病院診療棟耐震化整備事業完了式. 2017.2.25, 射水市民病院. (招待講演)
  - 12) 齋藤 滋: RA、IBD、SLE 女性患者の妊娠、出産をめざした内科、整形外科との連携. 第 42 回 富山大学附属病院地域連携研修会. 2017.1.30, 富山
  - 13) 齋藤 滋: 免疫学的妊娠機構からみた自己免疫合併妊娠管理. リウマチ合併症カンファレンス. 2016.11.30, 松本(招待講演)
  - 14) 齋藤 滋: 免疫からみた妊娠維持機構とその破綻. 医療パラダイムシフト推進協議会・研究会. 2016.11.11, 東京(招待講演)
  - 15) 齋藤 滋: 関節リウマチ(RA)ならびに炎症性腸疾患(IBD)患者が妊娠・出産できる体制作り. 第 22 回石川リウマチ薬物治療研究会. 2016.10.1, 金沢(招待講演)
  - 16) 齋藤 滋: 免疫学的妊娠維持機構からみた自己免疫疾患合併妊娠の治療 - 抗 TNF 抗体を中心として-. 愛媛リウマチ研究会 特別講演. 2016.9.24, 愛媛(招待講演)
  - 17) 齋藤 滋: 自己免疫疾患患者の妊娠・出産を考える. 富山県膠原病患者会. 2016.7.2, 富山(招待講演)
  - 18) 齋藤 滋: 免疫学的妊娠維持機構から見た自己免疫合併妊娠管理. 北摂免疫フォーラム. 2016.5.20, 大阪(招待講演)
  - 19) Kageyama G, Onishi A, Ueda Y, Saegusa J, Morinobu A. Reliability of Patient Global Assessment in Rheumatoid Arthritis Patients. EULAR Congress 2017. 2017.7.14 -17. Madrid, Spain.
  - 20) Kumagai S, Nishida M, Uemura Y, Izumi M, Abe K, Yoneda K, Noda Y, Sendo S, Onishi A, Shinohara M, Tsuji G. Methotrexate Polyglutamates Levels in Erythrocytes Were Genetically Affected in RA Patients with Low Disease Activity for Long Period. EULAR Congress 2017. 2017.7.14 -17. Madrid, Spain.
  - 21) Akashi K, Nishimura K, Kageyama G, Ichikawa S, Shirai, Yamamoto Y, Ichise Y, Naka I, Waki D, Okano T, Takahashi S, Ueda Y, Sendo S, Onishi A, Saegusa J, Morinobu A. THE EFFICACY OF 2-YEARS DENOSUMAB TREATMENT FOR GLUCOCORTICOID-INDUCED OSTEOPOROSIS (GIOP) EULAR Congress 2017. 2017.7.14 -17. Madrid, Spain.
  - 22) Saito R, Nishimura K, Mukoyama H, Nakamura Y, Nagamoto T, Akashi K, Onishi A, Kogata Y, Saegusa J, Morinobu A , T. Yokota. THE CLINICAL FEATURES OF 223 BEHCET'S DISEASE PATIENTS IN JAPAN EULAR Congress 2017. 2017.7.14 -17. Madrid, Spain.
  - 23) Sendo S, Saegusa J, Ichise Y, Yamada H, Naka I, Okano T, Takahashi S, Ueda Y, Kengo A, Onishi A, Morinobu A CD11b+Grdim Tolerogenic Dendritic Cell-Like Cells are Expanded in Interstitial Lung Disease in SKG Mice. EULAR Congress 2017. 2017.7.14 -17. Madrid, Spain.

- 24) Sendo S, Saegusa J, Ichise Y, Yamada H, Naka I, Ueda Y, Okano T, Takahashi S, Kengo A, Onishi S, Morinobu A. CD11b+Gr1dim Tolerogenic Dendritic Cell-Like Cells Suppress the Progression of Interstitial Lung Disease in SKG Mice. American Colleg of Rheumatology. 2017.11.3- 8. San Diego.
- 25) Kageyama G, Onishi A, Ueda Y, Kamei Y, Yamada H, Ichise Y, Waki D, Naka I, Tsuda K, Okano T, Takahashi S, Nishida M, Akashi K, Nishimura K, Sendo S, Kogata Y, Saegusa J, Morinobu A. Subjective Well-being of Japanese RA patients who reach treatment target is higher than the Japanese average. EULAR Congress 2016 Annual European Congress of Rheumatology. 2016.6.8-11. ロンドン.
- 26) Akashi K, Saegusa J, Sendo S, Nishimura K, Tsuda K, Naka I, Okano T, Takahashi S, Nishida M, Ueda Y, Morinobu A. KNOCKOUT OF ENDOTHELIN TYPE B RECEPTOR SIGNALING ATTENUATES BLEOMYCIN-INDUCED SKIN SCLEROSIS IN MICE. EULAR Congress 2016 Annual European Congress of Rheumatology. 2016.6.8-11. ロンドン.
- 27) Okano T, Saegusa J, Nishimura K, Takahashi S, Sendo S, Ueda Y, Onishi A, Morinobu A. 3-BROMOPYRUVATE AMELIORATES AUTOIMMUNE ARTHRITIS BY EXERTING A DUAL EFFECT ON BOTH TH17 AND TREG CELL DIFFERENTIATION AND DENDRITIC CELL ACTIVATION. EULAR Congress 2016 Annual European Congress of Rheumatology. 2016.6.8-11. ロンドン.
- 28) Onishi A, Kageyama G, Ueda Y, Naka I, Tsuda K, Okano T, Takahashi S, Akashi K, Sendo S, Kogata Y, Saegusa J, Morinobu A. Impact of Socioeconomic Status on Disease Outcomes in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis Under the Japanese National Insurance System. ACR/ARHP Annual Meeting Washington, DC 2016. 2016.11.11 ~ 16. ワシントン.
- 29) Sendo S, Saegusa J, Okano T, Takahashi S and Morinobu A. CD11b+Gr1dimcells increase with the progression of pneumonitis in SKG mice, and are induced by GM-CSF. ACR/ARHP Annual Meeting Washington, DC 2016.2016.11.11 ~ 16. ワシントン.
- 30) Takahashi S, Saegusa J, Naka I, Tsuda K, Okano T, Akashi K, Sendo S, Ueda Y, Onishi A, Kogata Y, Morinobu A. Glutamine metabolism plays a crucial role in the pathogenesis in rheumatoid arthritis. ACR/ARHP Annual Meeting Washington, DC 2016. 2016.11.11 ~ 16. ワシントン.
- 31) Takahashi S, Saegusa J, Naka I, Tsuda K, Okano T, Akashi K, Sendo S, Ueda Y, Onishi A, Kogata Y, Morinobu A. Glutamine metabolism plays a crucial role in the pathogenesis in rheumatoid arthritis. ACR/ARHP Annual Meeting Washington, DC 2016. 2016.11.11 ~ 16. ワシントン.
- 32) Okano T, Saegusa J, Nishimura K, Ueda Y, Sendo S, Takahashi S, Akashi K, Onishi A and Morinobu A. Dual Effect of 3-Bromopyruvate on Both Th17 and Treg Cell Differentiation and Dendritic Cell Activation Ameliorates Autoimmune Arthritis in Mice. ACR/ARHP Annual Meeting Washington, DC 2016. 2016.11.11 ~ 16. ワシントン.
- 33) 明石 健吾、西村 啓佑、蔭山 豪一、市川 晋也、白井 太一郎、山本 譲、一瀬 良英、山田 啓貴、仲 郁子、津田 耕作、脇 大輔、岡野 隆一、高橋 宗史、上田 洋、千藤 荘、大西 輝、古形 芳則、三枝 淳、森信 暁雄. 骨粗鬆症と骨代謝 / 変形性関節症・軟骨ステロイド骨粗鬆症(GIO)に対するデノスマブの有効性 2年間の使用成績. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 34) 蔭山 豪一、森信 暁雄. 関節リウマチ診療における患者立脚型評価 関節リウマチ診療における患者全般評価. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 35) 齋藤 林太郎、西村 啓佑、向山 宙希、中村 優理、永本 匠、明石 健吾、大西 輝、古形 芳則、三枝 淳、森信 暁雄、横田 敏彦. ベーチェット病223例の臨床的特徴. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 36) Sho Sendo, Jun Saegusa, Yoshihide Ichise, Hirotaka Yamada, Ikuko Naka, Takaichi Okano,

- Soshi Takahashi, Yo Ueda, Akashi Kengo, Akio Morinobu. CD11b+Grldim Tolerogenic Dendritic Cell-Like Cells are Expanded in Interstitial Lung Disease of SKG Mice. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 37) 西田 美和, 辻 剛, 阿部 京介, 泉 真祐子, 納田 安啓, 米田 勝彦, 大西 輝, 上村 裕子, 熊谷 俊一. メトトレキサート(MTX)有効症例におけるポリグルタミン化 MTX 濃度と薬剤代謝関連遺伝子多型. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 38) 市川 晋也, 明石 健吾, 千藤 莊, 白井 太一郎, 山本 讓, 脇 大輔, 大西 輝, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. 致死的経過を辿った Rheumatoid Vasculitis に伴う肺動脈性高血圧症の一例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 39) 森信 暁雄. ループス腎炎に対する寛解導入・維持療法の実践. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 40) 白井 太一郎, 脇 大輔, 千藤 莊, 市川 晋也, 山本 讓, 明石 健吾, 大西 輝, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. シクロスポリンが奏功した自己免疫性好中球減少症を伴う乾癬性関節炎の一例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 41) 脇 大輔, 白井 太一郎, 市川 晋也, 山本 讓, 明石 健吾, 大西 輝, 古形 芳則, 森信 暁雄. ステロイド抵抗性の TAFRO 症候群に対しカルシニューリン阻害薬は有効かつ比較的安全に使用できる tacrolimus が奏功した自験例 2 例の報告と 37 例の case review より. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.
- 42) 千藤 莊, 三枝 淳, 岡野 隆一, 高橋 宗史, 森信 暁雄. SKG マウスの間質性肺炎ではユニークな免疫寛容性樹状細胞が誘導される. 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-18. 大阪.
- 43) 明石 健吾, 大木 洋子, 白井 太一郎, 藤川 良一, 永本 匠, 山本 讓, 山田 啓貴, 一瀬 良英, 仲 郁子, 岡野 隆一, 高橋 宗史, 上田 洋, 千藤 莊, 大西 輝, 三枝 淳, 森信 暁雄. 炎症性筋疾患に合併する間質性肺疾患における血清マーカーの推移. 第 45 回日本臨床免疫学会総会. 2017.9.28-30. 東京.
- 44) 岡野 隆一, 明石 健吾, 白井 太一郎, 大木 洋子, 永本 匠, 藤川 良一, 高橋 宗史, 千藤 莊, 大西 輝, 三枝 淳, 森信 暁雄. シェーグレン症候群による亜急性感覚失調性ニューロパチーの 1 例. 第 45 回日本臨床免疫学会総会. 2017.9.28-30. 東京.
- 45) 森信 暁雄. JAK 阻害剤の基礎と臨床. 第 45 回日本臨床免疫学会総会. 2017.9.28-30. 東京.
- 46) 森信 暁雄. 代謝制御剤による膠原病治療の可能性. 第 45 回日本臨床免疫学会総会. 2017.9.28-30. 東京.
- 47) 白井 太一郎, 脇 大輔, 千藤 莊, 明石 健吾, 大西 輝, 三枝 淳, 森信 暁雄. Tacrolimus で初めて治療し得た心筋障害合併症を含む TAFRO 症候群の 2 症例. 第 45 回日本臨床免疫学会総会. 2017.9.28-30. 東京.
- 48) Ueda Y, Saegusa J, Okano T, Sendo S, Nishimura K, Yamada H, Takahashi S, Akashi K, Morinobu A. Inhibition of the mTOR Pathway and Glutaminolysis Facilitates the Expansion of Myeloid-Derived Suppressor Cells and Synergistically Ameliorates Arthritis in SKG Mice. 第 46 回日本免疫学会. 2017.12.12-14. 仙台.
- 49) Sendo S, Saegusa J, Yamada H, Ueda Y, Okano T, Takahashi S, Kengo A, Morinobu A. CD11b+Grldim Tolerogenic Dendritic Cell-like Cells Differentiated from Monocytic-MDSCs Suppress the Progression of Interstitial Lung Disease in SKG Mice. 第 46 回日本免疫学会. 2017.12.12-14. 仙台.
- 50) Akashi K, Saegusa J, Sendo S, Nishimura K, Tsuda K, Naka K, Okano T, Takahashi S, Nishida M, Ueda Y, Morinobu A. KNOCKOUT OF ENDOTHELIN TYPE B RECEPTOR SIGNALING ATTENUATES BLEOMYCIN-INDUCED SKIN SCLEROSIS IN MICE 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23. 横浜.
- 51) Takahashi S, Saegusa J, Naka I, Tsuda K, Okano T, Akashi K, Nishida M, Nishimura K, Sendo S, Ueda Y, Onishi A, Kogata Y, Morinobu A. Glutaminase1 inhibitor inhibits synoviocytes proliferation and ameliorates inflammatory

- arthritis in mice. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会.2016.4.21-23. 横浜.
- 52) 一瀬 良英, 古形 芳則, 亀井 優衣子, 山田 啓貴, 脇 大輔, 津田 耕作, 西村 啓佑, 大西 輝, 梅田 良祐, 辻 剛, 森信 暁雄, 熊谷 俊一. シクロフォスファミドが著効したシェーグレン症候群に伴う蛋白漏出性胃腸症の一例. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23, 横浜
- 53) 蔭山 豪一, 大西 輝, 上田 洋, 仲 郁子, 津田 耕作, 岡野 隆一, 高橋 宗史, 西田 美和, 明石 健吾, 西村 啓佑, 千藤 莊, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. 関節リウマチの治療評価と予測 疼痛評価 VAS が高い患者の健康状態全般評価 VAS は過小申告されていることがある(ROCKo コホート研究から). 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23. 横浜.
- 54) 蔭山 豪一, 大西 輝, 上田 洋, 仲 郁子, 津田 耕作, 岡野 隆一, 高橋 宗史, 西田 美和, 明石 健吾, 西村 啓佑, 千藤 莊, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. 関節リウマチの治療 QOL 治療目標に到達した関節リウマチ患者の主観的幸福度は、一般的な日本人より高い(ROCKo コホート研究から). 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23, 横浜.
- 55) 亀井 優衣子, 西村 啓佑, 脇 大輔, 一瀬 良英, 山田 啓貴, 大西 輝, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. 多発性筋炎、強皮症合併の Overlap 症候群に肺リンパ増殖性疾患を合併した小児の一例 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会.2016.4.21-23.横浜.
- 56) 西村 啓佑, 津田 耕作, 仲 郁子, 岡野 隆一, 明石 健吾, 高橋 宗史, 西田 美和, 上田 洋, 千藤 莊, 大西 輝, 古形 芳則, 蔭山 豪一, 三枝 淳, 河野 誠司, 森信 暁雄. ベーチェット病 特殊型ベーチェット病に対する TNF 阻害剤の有効性. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23, 横浜.
- 57) 千藤 莊, 仲 郁子, 津田 耕作, 岡野 隆一, 西田 美和, 明石 健吾, 高橋 宗史, 上田 洋, 西村 啓佑, 大西 輝, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. リウマチ性疾患の基礎研究 SKG マウス肺病変の進展に伴って増加する CD11b+Gr1dim cell は GM-CSF によって誘導される. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23.横浜.
- 58) 千藤 莊, 仲 郁子, 津田 耕作, 岡野 隆一, 西田 美和, 明石 健吾, 高橋 宗史, 上田 洋, 西村 啓佑, 大西 輝, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. SKG マウス肺病変の進展に伴って増加する CD11b+Gr1dim cell は GM-CSF によって誘導される. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23. 横浜.
- 59) 大西 輝, 蔭山 豪一, 上田 洋, 津田 耕作, 仲 郁子, 岡野 隆一, 明石 健吾, 西村 啓佑, 高橋 宗史, 西田 美和, 千藤 莊, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. リウマチ性疾患の疫学 関節リウマチ患者における社会経済的要因が疾患活動性、日常生活動作に与える影響の検討(ROCKo コホート研究から). 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23, 横浜.
- 60) 明石 健吾, 西村 啓佑, 大西 輝, 古形 芳則, 三枝 淳, 森信 暁雄. 多発性筋炎・皮膚筋炎 間質性肺疾患(ILD)を合併する炎症性筋疾患(IIM) 、特に Clinically amyopathic dermatomyositis(CADM) における治療前 KL-6/SP-D 値の検討. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21-23, 横浜.
- 61) 村川洋子. リウマチ性疾患と妊娠 教育講演 8. 第 32 回臨床リウマチ学会, 2017.12.2, 神戸.
- 62) 村川洋子, 村島温子, 金子佳代子, 中川夏子, 舟久保ゆう, 中島亜矢子, 阿部麻美, 窪田綾子, 河野 肇, 三輪裕介, 住田孝之, 原岡ひとみ, 三宅幸子, 宮前多佳子. 日本リウマチ学会男女共同参画委員会の取り組み -男女共同参画に関するアンケート結果について . 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21~23. 横浜.
- 63) 本田学, 角田佳子, 近藤正宏, 森山繭子, 村川洋子. IgG4 関連疾患に対するステロイド治療中のサイトメガロウイルス再活性化により Guillain-Barré 症候群をきたした一例 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会 2016.4.21~23 横浜
- 64) 近藤正宏, 村川洋子, 本田学, 森山繭子, 角田佳子. 軟骨炎を合併した成人発症スチル病(AOSD)の一例. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21~23. 横浜.
- 65) 角田佳子, 本田学, 森山繭子, 近藤正宏, 村

- 川洋子. 血漿交換、シクロフォスファミドパルス、タクロリムスの併用療法が有効であった肺出血合併 SLE の 1 例. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21 ~ 23. 横浜.
- 66) 森山繭子、本田学、角田佳子、近藤正宏、村川洋子. 当科の RA 患者における Golimumab の使用経験. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21 ~ 23. 横浜.
- 67) 杉浦智子、川上誠、近藤正宏、村川洋子. 薬剤スクリーニングで見出された低分子化合物の滑膜細胞および単球性細胞に対する役割. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016.4.21 ~ 23. 横浜.
- 68) 本田学、近藤正宏、角田佳子、森山繭子、村川洋子. 肺炎球菌ワクチン接種の副反応により副腎不全を来した関節リウマチ (RA) の 1 例. 第 115 回内科学会中国地方会. 2016.11.26 . 岡山.
- 69) 森山繭子、村川洋子、近藤正宏、角田佳子、本田学. ゴリムマブ治療中に IgA 血管炎を合併した関節リウマチの 1 例. 第 27 回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会. 2016.12.03 広島
- 70) 村川洋子、森田吉孝. 中国・四国地区でリウマチ専門医をいかに育成するか ~ 現状と将来への期待. 第 27 回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会. 2016.12.03. 広島.
- 71) Yokoyama Y, Iwasaki T, Kitano S, Furukawa T, Satake A, Matsui K, Sano H. IL-2IC suppresses CIA in mice by the th1/th17 immune responses due to enhancement of both treg numbers and treg functions. The Annual European Congress of Rheumatology (EULAR2017). 2017.6.14-17. Madrid.
- 72) Tsunoda S, Nishioka A, Abe T, Kitano M, Matsui K, Sano H. Neopterin as a serological marker of disease activity in patients with anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody positive clinically amyopathic dermatomyositis. The Annual European Congress of Rheumatology (EULAR2017). 2017.6.14-17. Madrid.
- 73) Tamura M, Matsui K, Azuma K, Tsuboi K, Ogita C, Tani M, Yoshikawa T, Hino T, Nishioka A, Morimoto M, Azuma N, Kitano M, Sano H. Association of serum interleukin-6,TNF receptor and interleukin-17 levels with disease activity in Japanese patients with SAPHO syndrome. 19th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress(APLAR2017) (10/16-20), Dubai
- 74) Furukawa T, Matsui K, Kitano M, Yokoyama Y, Azuma N, Sano H. Sensitivity and specificity of YKL-40 for the presence of pulmonary arterial hypertension in systemic sclerosis. The 83rd Annual Scientific Meeting of the American College of Rheumatology(ACR/ARHP2017). 2017.11.3-8. Sandiego.
- 75) Kitano M, Kitano Se, Furukawa T, Yokoyama Y, Nishioka A, Sekiguchi M, Azuma N, Matsui K, Sano Hajime. Early effects of tofacitinib on bone homeostasis in patients with rheumatoid arthritis. The 82rd Annual Scientific Meeting of the American College of Rheumatology(ACR/ARHP).2016.11.14. Washington D.C.
- 76) 東 直人, 片田圭宣, 北野幸恵, 西岡亜紀, 関口昌弘, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. シェーグレン症候群における口腔内病変と唾液中 EGF の関係:唾液分泌促進薬, ステロイド薬による影響の評価. (ワークショップ);シェーグレン症候群/IgG4 関連疾患 1. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 77) 角田慎一郎, 吉川卓宏, 横山雄一, 関口昌弘, 橋本尚明, 松井 聖, 佐野 統. 自己抗体の違いによるシェーグレン症候群の発症機序の解明 - 小唾液腺組織の microRNA からのアプローチ -. (ワークショップ); シェーグレン症候群/IgG4 関連疾患 1. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会(JCR2017) . 2017.4.20-22. 福岡.
- 78) 関口昌弘, 村上孝作, 藤井隆夫, 北野将康, 松井 聖, 三木健司, 横田 章, 橋本英雄, 黒岩孝則, 前田恵治, 山本相浩, 藤本 隆, 日高利彦, 新名直樹, 吉井一郎, 大村浩一郎, 川人 豊, 西本憲弘, 三森経世, 佐野 統. ACPA 陽性バイオタイプ関節リウマチ患者に対するアバタセプトの関節破壊抑制効果 - 年齢別の比較検討(ABROAD 試験),第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017) . 2017.4.20-22. 福岡.

- 79) 古川哲也, 松井 聖, 北野将康, 横山雄一, 関口昌弘, 東 直人, 佐野 統. 全身性強皮症(SSc)における YKL-40 と皮膚免疫組織染色. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 80) 西岡亜紀, 角田慎一郎, 賀来智志, 田所 麗, 榎野秀彦, 東 幸太, 壺井和幸, 荻田千愛, 谷 名, 田村誠朗, 森本麻衣, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 細野祐司, 大村浩一郎, 三森経世, 佐野 統. 抗 MDA5(Melanoma differentiation-associated gene 5)抗体陽性皮膚筋炎における抗 MDA5 抗体価とサイトカインの疾患活動性との関連の検討. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 81) 横山雄一, 岩崎 剛, 北野幸恵, 古川哲也, 松井 聖, 佐野 統. IL-2-抗 IL-2 抗体免疫複合体によるモデルマウス関節炎抑制と制御性 T 細胞増強効果の検討. (ワークショップ);リウマチ性疾患の動物モデル. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 82) 谷 名, 角田慎一郎, 吉川卓宏, 荻田千愛, 田村誠朗, 横山雄一, 古川哲也, 西岡亜紀, 森本麻衣, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 関節リウマチ患者における生物学的製剤および分子標的薬使用による抗シトルリン化ペプチド(CCP)抗体とリウマトイド因子の変化についての検討. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 83) 田所 麗, 壺井和幸, 田村誠朗, 関口昌弘, 橋本尚明, 賀来智志, 榎野秀彦, 東 幸太, 荻田千愛, 谷 名, 吉川卓宏, 西岡亜紀, 森本麻衣, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 既存の免疫抑制治療に奏功せず肺血管拡張薬の併用により改善を認めた SLE-PAH(全身性エリテマトーデス-肺動脈性肺高血症)の一例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 84) 壺井和幸, 関口昌弘, 角田慎一郎, 賀来智志, 田所 麗, 榎野秀彦, 東 幸太, 横山雄一, 古川哲也, 荻田千愛, 吉川卓宏, 谷 名, 田村誠朗, 森本麻衣, 西岡亜紀, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 多発血管炎性肉芽腫症に合併した肥厚性硬膜炎に対するリツキシマブの有効性と安全性の検討. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 85) 齋藤篤史, 榎野秀彦, 田所 麗, 賀来智志, 壺井和幸, 東 幸太, 谷 名, 横山雄一, 荻田千愛, 古川哲也, 吉川卓宏, 田村誠朗, 森本麻衣, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 角田慎一郎, 松井 聖, 佐野 統. 肺悪性腫瘍と鑑別を要した IgG4 関連呼吸器疾患(胸膜病変)の 2 例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 86) 森本麻衣, 賀来智志, 田所 麗, 榎野秀彦, 東 幸太, 壺井和幸, 荻田千愛, 谷 名, 田村誠朗, 吉川卓宏, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 突然の両眼性中心暗点で発症し経過中に輪状暗点へと推移した HLA-B51/A26 double positive 完全型ベーチェット病の一例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 87) 芝本真季, 谷 名, 東 幸太, 榎野秀彦, 賀来智志, 田所 麗, 壺井和幸, 荻田千愛, 横山雄一, 古川哲也, 田村誠朗, 吉川卓宏, 西岡亜紀, 森本麻衣, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. メトロニダゾール脳症を発症した全身性強皮症の一症例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 88) 安部武生, 萩原敬史, 鎌田和弥, 角田慎一郎, 東 幸太, 田村誠朗, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 抗 PL-7 抗体陽性 ARS 抗体症候群の後方視的検討. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 89) 榎野秀彦, 田所 麗, 東 幸太, 壺井和幸, 荻田千愛, 横山雄一, 谷 名, 古川哲也, 田村誠朗, 吉川卓宏, 森本麻衣, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 間質性肺炎を合併し, CK 値正常化を達成しえた抗 SRP 抗体陽性筋炎 2 例の報告. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017). 2017.4.20-22. 福岡.
- 90) 吉川卓宏, 賀来智志, 榎野秀彦, 田所 麗, 東 幸太, 壺井和幸, 谷 名, 荻田千愛, 横山雄一, 田村誠朗, 古川哲也, 森本麻衣, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. リウマチ性疾患患者における肺高血

- 圧症と Tpeak-Tend interval の関係について. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017) . 2017.4.20-22. 福岡.
- 91) 北野将康, 芝本真季, 賀来智志, 田所 麗, 榎野秀彦, 東 幸太, 壺井和幸, 谷 名, 荻田千愛, 横山雄一, 古川哲也, 田村誠朗, 吉川卓宏, 西岡亜紀, 森本麻衣, 関口昌弘, 東 直人, 角田慎一郎, 松井 聖, 佐野 統. 関節リウマチでの骨代謝に及ぼす Tofacitinib の効果. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017) . 2017.4.20-22. 福岡.
- 92) 田村誠朗, 松井 聖, 賀来智志, 田所 麗, 榎野秀彦, 東 幸太, 壺井和幸, 荻田千愛, 谷名, 古川哲也, 横山雄一, 吉川卓宏, 西岡亜紀, 森本麻衣, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 佐野 統. 当科における SAPHO 症候群 10 症例の臨床的検討. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017) . 2017.4.20-22. 福岡.
- 93) 東 幸太, 田村誠朗, 田所 麗, 榎野秀彦, 賀来智志, 壺井和幸, 荻田千愛, 横山雄一, 谷名, 古川哲也, 吉川卓宏, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 扁桃病巣感染を契機に急性発症をきたした末梢性脊椎関節炎の 1 例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017) . 2017.4.20-22. 福岡.
- 94) 賀来智志, 田村誠朗, 荻田千愛, 森本麻衣, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 若年性特発性関節炎の加療中トシリズマブによる皮疹が繰り返し出現した 1 例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017) . 2017.4.20-22. 福岡.
- 95) 荻田千愛, 賀来智志, 榎野秀彦, 田所 麗, 壺井和幸, 東 幸太, 谷 名, 横山雄一, 古川哲也, 田村誠朗, 吉川卓宏, 西岡亜紀, 森本麻衣, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 家族性地中海熱の加療中に Extranodal NK/T-cell lymphoma を合併した一例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会 (JCR2017) . 2017.4.20-22. 福岡.
- 96) 田村誠朗, 田所 麗, 榎野秀彦, 東 幸太, 横山雄一, 吉川卓宏, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 難治性中耳炎で発症し, リツキシマブ (RTX) が効果的であった ANCA 関連血管炎 2 例の検討. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017.6.16-8. 東京.
- 97) 東 幸太, 田村誠朗, 横山雄一, 東 直人, 吉川卓宏, 松井 聖, 佐野 統. 重度の末梢神経障害を伴った好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の 1 例. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017.6.16-8. 東京.
- 98) 北野将康, 北野幸恵, 芝本真季, 田所 麗, 賀来智志, 壺井和幸, 谷 名, 荻田千愛, 横山雄一, 古川哲也, 田村誠朗, 吉川卓宏, 森本麻衣, 東 直人, 松井 聖, 佐野 統. 関節リウマチの骨代謝・破骨細胞分化調節因子に対する Tofacitinib の効果. 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-9. 大阪.
- 99) 古川哲也, 松井 聖, 北野将康, 横山雄一, 関口昌弘, 東 直人, 佐野 統. 全身性強皮症 (SSc) における YKL-40 を指標とした PAH 合併の有無による感度・特異度の検討. 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-9. 大阪.
- 100) 横山雄一, 岩崎 剛, 北野幸恵, 古川哲也, 松井 聖, 佐野 統. IL-2-抗 IL-2 抗体免疫複合体による関節炎モデルマウス治療のメカニズム. (第 38 回日本炎症・再生医学会優秀演題賞) 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-9. 大阪.
- 101) 東 直人, 片田圭宣, 北野幸恵, 西岡亜紀, 関口昌弘, 北野将康, 橋本尚明, 松井 聖, 岩崎剛, 佐野 統. シェーグレン症候群における唾液の質の低下: 口腔内病変と唾液中 EGF の関係. 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-9. 大阪.
- 102) 西岡亜紀, 角田慎一郎, 賀来智志, 田所 麗, 壺井和幸, 荻田千愛, 谷 名, 横山雄一, 古川哲也, 田村誠朗, 吉川卓宏, 森本麻衣, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 細野祐司, 大村浩一郎, 三森経世, 佐野 統. 抗 MDA5 (melanoma differentiation-associated gene 5) 抗体陽性皮膚筋炎患者の抗 MDA5 抗体価及び炎症性サイトカインの検討. 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-9. 大阪.
- 103) 松井 聖, 西岡亜紀, 古川哲也, 横山雄一, 東直人, 北野将康, 細野祐司, 中嶋 蘭, 角田慎一郎, 大村浩一郎, 三森経世, 佐野 統. 多発性筋炎・皮膚筋炎 (PM/DM) 患者における YKL-40 の測定意義. 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-9. 大阪.
- 104) 田村誠朗, 松井 聖, 荻田千愛, 谷 名, 吉川

- 卓宏, 森本麻衣, 東 直人, 北野将康, 佐野 統. 当科における SAPHO 症候群 12 症例の臨床検討. 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-9. 大阪.
- 105) 森本麻衣, 北野将康, 賀来智志, 田所 麗, 壺井和幸, 荻田千愛, 谷 名, 横山雄一, 田村誠朗, 古川哲也, 吉川卓宏, 東 直人, 松井 聖, 佐野 統. 心不全を契機に心筋生検で診断のついたアミロイドーシスの 2 例. 第 38 回日本炎症・再生医学会. 2017.7.18-9. 大阪.
- 106) 東 直人, 片田圭宣, 北野幸恵, 西岡亜紀, 関口昌弘, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. シェーグレン症候群における口腔内病変と唾液中 EGF の関係: 唾液分泌促進薬, ステロイド薬による影響の評価. 第 26 回日本シェーグレン症候群学会学術集会. 2017.9.8-9. 東京.
- 107) 田村誠朗, 松井 聖, 東 幸太, 壺井和幸, 荻田千愛, 谷 名, 吉川卓宏, 日野拓耶, 西岡亜紀, 森本麻衣, 東 直人, 北野将康, 佐野 統. SAPHO 症候群 10 症例の検討. 日本脊椎関節炎学会第 27 回学術集会. 2018.9/8-9. 高知.
- 108) 吉川卓宏, 松井 聖, 多田久里守, 井上 久, 小林茂人, 浦野房三, 近藤正一, 田村直人, 佐野 統. 多施設共同疫学研究による脊椎関節炎患者の実態調査. 日本脊椎関節炎学会第 27 回学術集会. 2018.9/8-9. 高知.
- 109) 田所 麗, 壺井和幸, 荻田千愛, 賀来智志, 東 幸太, 谷 名, 横山雄一, 古川哲也, 田村誠朗, 吉川卓宏, 森本麻衣, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 左下垂足を呈した治療抵抗性好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)の 1 例. 第 45 回日本臨床免疫学会総会. 2018.9.28-30. 東京.
- 110) 佐野 統, 吉川卓宏, 松井 聖. 体軸性脊椎関節炎の診断・治療の最近の動向 - 強直性脊椎炎から non-radiographic axial SpA - .本邦における脊椎関節炎関連疾患の第二の夜明け. 第 27 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2017.10.6. 京都.
- 111) 松井 聖, 吉川卓宏, 佐野 統. RA 高齢者の腎機能と治療の現状と問題点. 高齢 RA 患者に対するマネジメント. 第 32 回日本臨床リウマチ学会. 2017.12.2-3. 神戸.
- 112) 賀来智志, 森本麻衣, 榎野秀彦, 田村誠朗, 谷 名, 荻田千愛, 西岡亜紀, 東直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 高フェリチン血症・肝機能障害・間質性肺炎を伴った抗 MDA 抗体陽性皮膚筋炎の 1 例. 第 32 回日本臨床リウマチ学会. 2017.12.2-3. 神戸
- 113) 壺井和幸, 田村誠朗, 有沼良幸, 谷 名, 東直人, 北野将康, 松井 聖, 佐野 統. 抗 NR2 抗体が統合失調症の増悪との鑑別に有用であった NPSLE の 1 例. 第 32 回日本臨床リウマチ学会. 2017.12.2-3. 神戸.
- 114) 北野将康, 北野幸恵, 斎藤篤史, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 松井 聖, 佐野 統. 関節リウマチの骨代謝に対する生物学的製剤の効果. 第 113 回日本内科学会講演. 2016.4.15-7. 東京.
- 115) 村上孝作, 関口昌弘, 藤井隆夫, 北野将康, 松井 聖, 三木健司, 横田 章, 橋本英雄, 山本相浩, 前田恵治, 藤本 隆, 新名直樹, 日高利彦, 黒岩孝則, 大村浩一郎, 吉井一郎, 川人 豊, 西本憲弘, 三森経世, 佐野 統. 生物学的製剤未治療関節リウマチ患者に対するアバセプトの関節破壊抑制効果(ABROAD 試験) -120 例を対象とした初回投与時の予測因子について. 関節リウマチの治療: 効果予測.(ワークショップ) 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会(JCR2016). 2016.4.21. 横浜.
- 116) 関口昌弘, 藤井隆夫, 村上孝作, 北野将康, 松井 聖, 橋本英雄, 横田 章, 三木健司, 山本相浩, 藤本 隆, 日高利彦, 新名直樹, 前田恵治, 黒岩孝則, 吉井一郎, 大村浩一郎, 川人 豊, 西本憲弘, 三森経世, 佐野 統. バイオナイーブ関節リウマチ患者に対するアバセプトの年齢別有効性予測因子の検討(ABROAD 試験). 関節リウマチの治療: 効果予測.(ワークショップ) 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会(JCR2016). 2016.4.21. 横浜.
- 117) 北野将康, 北野幸恵, 東 幸太, 壺井和幸, 荻田千愛, 安部武生, 田村誠朗, 吉川卓宏, 斎藤篤史, 西岡亜紀, 関口昌弘, 東 直人, 角田慎一郎, 橋本尚明, 松井 聖, 佐野 統. 関節リウマチでの破骨細胞分化調節因子に対する Tofacitinib の効果. 関節リウマチの治療: DMARDs・NSAIDs 1 (ワークショップ) 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会(JCR2016). 2016.4.22. 横浜.
- 118) 横山雄一, 岩崎 剛, 北野幸恵, 古川哲也, 松井 聖, 佐野 統. IL-2-抗 IL-2 抗体免疫複合体による関節リウマチ治療の検討. 第 60 回日

- 本リウマチ学会総会・学術集会(JCR2016). 2016.4.21. 横浜.
- 119) 角田慎一郎, 安部武生, 荻田千愛, 横山雄一, 古川哲也, 東 幸太, 壺井和幸, 田所 麗, 榎野秀彦, 松井 聖, 佐野 統. セルトリズムマブペゴルの減量に成功した関節リウマチ患者 5 症例の検討. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会(JCR2016). 2016.4.23. 横浜.
- 120) 関口昌弘, 松井 聖, 佐野 統. 関節リウマチ治療におけるアバタセプトの Best use. (ワークショップ) 第 44 回日本臨床免疫学会総会. 2016.9.8. 東京.
- 121) 松井 聖, 関口昌弘, 佐野 統. RA 治療におけるアバタセプトの位置付け ~ ABROAD 試験を中心に ~. (シンポジウム) 第 31 回日本臨床リウマチ学会. 2016.10.30. 東京.
- 122) Takeuchi K, Furukawa R, Sasaki D, Suzuki Y. The Early Response to Tacrolimus is likely to be a Predictor of the Long-term Outcome in the Patients with Ulcerative Colitis. The 5th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, 2017.6.17. Seoul, Korea.
- 123) Takeuchi K, Yamada A, Suzuki Y. The air-enema image of ultra-low dose CT colonography can be an alternative diagnostic technique for the assessment of mucosal healing in the patients with ulcerative colitis. 13th Congress of ECCO, 2018.2.16. Vienna, Austria.
- 124) Suzuki Y, Hagiwara T, Kobayashi M, Morita K, Shimamoto T, Hibi T. LONG-TERM SAFETY AND EFFECTIVENESS OF ADALIMUMAB IN 462 PATIENTS WITH INTESTINAL BEHCET'S DISEASE: RESULTS FROM A REAL-WORLD OBSERVATIONAL STUDY. 13th Congress of ECCO, 2018.2.16. Vienna, Austria.
- 125) K Watanabe, M Nishishita, F Shimamoto, T Fukuchi, M Esaki, Y Okamoto, Y Maehara, S Oka, S Nishiyama, S Fujii, F Hirai, T Inoue, N Hida, R Nozaki, T Sakurai, K Takeuchi, M, Saruta, S Saito, Y Saito, N Ohmiya, H Kashida, S Tanaka, T Matsui, Y Suzuki, Y Ajioka, H Tajiri. Comparison between newly-developed NBI and panchromoendoscopy for surveillance colonoscopy in patients with ulcerative colitis A prospective multicentre randomised controlled trial, Navigator Study. 11th congress of ECCO. 2016.3.16-19. Amsterdam, Netheland.
- 126) T. Arai, K. Takeuchi, A Yamada, M Miyamura, R Ishikawa, Y Suzuki. Faecal calprotectin level correlated well with ballon assisted endoscopy and compauted tomography enterograpy findings in the small Crohn's disease. 11th congress of ECCO. 2016.3.16-19. Amsterdam, Netheland.
- 127) 竹内 健, 岩佐亮太, 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎におけるインフリキシマブ導入 2 週間後の CRP レベルは長期有効性を予測する. 第 103 回日本消化器病学会. 2017.4.20, 東京.
- 128) 鈴木康夫. UC におけるこれからの抗体製剤治療を整理する ~ 臨床成績から ~. 第 103 回日本消化器病学会総会. 2017.4.20. 東京.
- 129) 鈴木康夫. IBD 難治症例に対する治療戦略. 水戸協同病院病診連携講演会(特別講演), 2017.5.30. 茨城.
- 130) 鈴木康夫. 炎症性腸疾患における新治療戦略. 第 19 回 IBD 治療研究会(特別講演), 2017.6.2. 名古屋.
- 131) 鈴木康夫. 難治性潰瘍性大腸炎における最新治療戦略. 日本消化器病学会東北支部第 203 回例会/第 159 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会(特別講演), 岩手, 2017.7.1
- 132) 鈴木康夫. 「クローン病治療 up date」 ~ 最適な Bio の使い方 ~. Hitachi クローン病セミナー(特別講演). 2017.7.4. 茨城.
- 133) 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎治療の基本から応用へ. 第 21 回 K-NET 病診連携懇話会 ~ IBD 診療の実態について ~ (特別講演). 2017.7.13. 埼玉.
- 134) 柴本麻衣, 木村道明, 大内裕香, 古川潔人, 岩下裕明, 佐々木大樹, 勝俣雅夫, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 長村愛作, 中村健太郎, 竹内 健, 高田伸夫, 鈴木康夫. 若年および高齢者潰瘍性大腸炎に対する血球成分除去療法の有効性の検討. 日本消化器病学会関東支部第 345 回例会. 2017.7.15. 東京.
- 135) 岩下裕明, 高田伸夫, 佐々木大樹, 勝俣雅夫, 宮村美幸, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 長村愛作, 中村健太郎, 竹内 健, 鈴木康夫, 清水直美, 笹井大督, 徳山宣, 蛭田啓之. B 型肝炎加療中に悪性リンパ腫を発症した一例. 日本消化

- 器病学会関東支部第 345 回例会. 2017.7.15. 東京.
- 136) 鈴木康夫. 当番会長. 日本消化器病学会関東支部第 345 回例会. 2017.7.15. 東京.
- 137) 鈴木康夫: 班長. 厚生労働科学研究費補助金「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 29 年度第 1 回班会議. 2017.7.19 ~ 20. 東京.
- 138) 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎治療の新展開. 潰瘍性大腸炎治療の最前線 (特別講演), 2017.8.30, 茨城.
- 139) 鈴木康夫. 「IBD 治療におけるインフリキシマブの LCM (Life Cycle Management) と そのインパクト ~ 医療現場のニーズに応えた育薬 ~」. 第 181 回県北薬剤師勉強会 (特別講演). 2017.9.8. 茨城.
- 140) 鈴木康夫. IBD の新規治療. 第 21 回県北東部 IBD (炎症性腸疾患) 研究会 (特別講演). 2017.9.22. 千葉.
- 141) 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎治療の新展開. 大館潰瘍性腸疾患講演会, 2017.10.4. 秋田.
- 142) 鈴木康夫. 【デジタルポスターセッション】活動性潰瘍性大腸炎 (UC) 患者におけるトファシチニブ寛解維持試験 (国際共同 P3 臨床試験) の日本人部分集団解析. JDDW2017 福岡, 2017.10.13, 福岡.
- 143) 岡住慎一, 加藤良二, 鈴木康夫. 【統合プログラム 5】クローン病手術における 2 系統造影 MD-CT を用いた術前診断による切除と抗 TNF- 抗体療法による再発防止の成績. JDDW2017 福岡, 2017.10.14, 福岡.
- 144) 鈴木康夫. 「潰瘍性大腸炎の治療の基本から応用まで」~ 最新の治療戦略. 炎症性腸疾患学術講演会, 2017.10.24, 茨城.
- 145) 鈴木康夫. 【教育講演 2】炎症性腸疾患診療の up to date. 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2017.11.10, 福岡.
- 146) 鈴木康夫. 【ランチタイムセミナー】潰瘍性大腸炎の基本治療を考える. 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2017.11.11, 福岡.
- 147) 鈴木康夫. 【シンポジウム 3・特別発言】IBD に対する内科治療の進歩と外科治療. 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2017.11.11, 福岡.
- 148) 竹内 健, 鈴木康夫. 便中カルプロテクチン測定間隔の潰瘍性大腸炎の予後予測に対する影響への検討. 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2017.11.11, 福岡.
- 149) 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎の治療の基本から応用まで ~ 最新の治療戦略 ~. 土浦 UC フォーラム, 2017.11.28, 茨城.
- 150) 鈴木康夫: 【イブニングセミナー・総合発言】IBD のアジアチーム医療を考える. 第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 2017.12.1, 東京.
- 151) 鈴木康夫: 会長. 第 8 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 2017.12.1, 東京.
- 152) 鈴木康夫: 班長. 厚生労働科学研究費補助金「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 29 年度第 2 回班会議, 2018.1.18, 東京.
- 153) 竹内 健, 宮村美幸, 山田哲弘, 鈴木康夫, 石川ルミ子, 上原 隼, 石田 悟. 潰瘍性大腸炎の炎症評価における超低線量 CT colonography 仮想注腸像の有用性, 第一回日本消化管 Virtual Reality 学会総会, 2018.1.20, 東京.
- 154) 鈴木康夫. IBD 診療の Up To Date. 第 12 回南大阪内視鏡の会, 2018.1.25, 大阪.
- 155) 山田哲弘, 小牧祐雅, David Rubin, 櫻庭 篤, 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎における周術期生物製剤 (抗インテグリン製剤および抗 TNF 製剤) 治療の安全性について 術後合併症の検討から Risk of Postoperative Complication among Ulcerative Colitis Patients Treated Preoperatively with Anti-integrin and Anti-Tumor Necrosis Factor Agents, 第 14 回日本消化管学会総会学術集会, 2018.2.9, 東京.
- 156) 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎の治療の基本から応用へ. 第 185 回練馬区医師会学術部消化器懇話会, 2018.2.21, 東京.
- 157) 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎に与えた生物学的製剤のインパクトと課題. 第 31 回大阪クローン病治療研究会, 2018.2.23, 大阪.
- 158) 鈴木康夫. 【ランチョンセミナー-3】クローン病治療 up date ~ 最適な Bio の使い方 ~. 第 122 回日本消化器病学会北海道支部例会 第 116 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会, 2018.3.3, 札幌.
- 159) 鈴木康夫. IBD 治療の最新の話. 第 22 回佐倉薬剤師セミナー, 2018.3.7, 千葉.
- 160) 鈴木康夫. IBD の新たな診療体制 ~ 病診連携を中心に ~. 消化器疾患連携会 in SAKURA.

- 2016.12.7. 千葉.
- 161) 鈴木康夫. (シンポジウム 3) 血球成分除去療法と生物製剤・カルシニューリン阻害剤との融合 「インフリキシマブ二次無効クローン病症例に対する GMA の有効性」. 第 37 回. 本アフエレス学会学術大会. 2016.11.26. 横浜.
- 162) 鈴木康夫. 「潰瘍性大腸炎治療の Up to date ~ 病態から考える治療戦略 ~」. 第 9 回 東邦バイオフォーラム. 2016.11.24. 千葉.
- 163) 鈴木康夫. 炎症性腸疾患診療の up to date. 本消化器病学会. 関東支部第 29 回教育講演会. 2016.11.20. 東京.
- 164) 竹内 健, 古川竜一, 鈴木康夫. 難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス・インフリキシマブ継続療法の有効性. 第 71 回. 本大腸肛門病学会学術集会. 2016.11.19. 三重.
- 165) 鈴木康夫. 教育講演「IBD 治療 最近の進歩」. JDDW2016. 2016.11.1. 兵庫.
- 166) 鈴木康夫. ランチョンセミナー 10 「State-of-the-Art in treatment of mild-moderate active Crohn's disease」. APDW2016. 2016.11.1. 兵庫.
- 167) 竹内 健, 宮村美幸, 石川ルミ子, 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎における便中バイオマーカーと超低線量 CT colonography による疾患活動性モニタリングの可能性. 第 34 回. 本大腸検査学会総会. 2016.10.8. 東京.
- 168) 鈴木康夫. 「炎症性腸疾患の基本治療 ~ ステロイドの適切な使用方法について ~」. 本医師会障害教育講座 旭川 IBD フォーラム. 2016.10.6. 旭川.
- 169) 鈴木康夫. 特別講演「IBD 治療 Up-to Date」. 第 100 回宮城 IBD 研究会 (第 25 回特別講演会). 2016.10.1. 仙台.
- 170) 鈴木康夫. 特別講演「難治性ペーチェット病に対する治療戦略 ~ バイオの有効性 ~」. 第 19 回 県北東部 IBD (炎症性腸疾患) 研究会. 2016.9.9. 成田
- 171) 鈴木康夫. 特別講演「炎症性腸疾患 本邦における最新動向」. 第 32 回 IBD クラブジュニアウエスト. 2016.8.27. 大阪.
- 172) 鈴木康夫. 「CD 及び BD に対する IFX の有用性」 第 116 回. 本消化器内視鏡学会中国支部例会. 2016.6.26. 島根.
- 173) 鈴木康夫. ランチョンセミナー 7 「長期マネジメントを考慮した潰瘍性大腸炎の治療戦略」. 第 107 回. 本消化器病学会九州支部例会・第 101 回. 本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2016.6.25. 佐賀
- 174) 中村健太郎, 福田勝之, 吉村直樹, 勝野達郎, 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎寛解維持に対する probiotics 投与の検討. 第 20 回腸内細菌学会. 2016.6.10. 東京.
- 175) 中村健太郎, 鈴木康夫. 潰瘍性大腸炎寛解維持に対する probiotics 投与の検討. 第 20 回腸内細菌学会. 2016.6.10. 東京.
- 176) 鈴木康夫. 特別講演「潰瘍性大腸炎治療の最新情報 ~ 基本から応用へ ~」. 第 11 回多摩腸疾患カンファレンスのご案内. 2016.5.27. 東京.
- 177) 鈴木康夫. 特別講演「IBD 治療の現状と展望」. 岐阜 IBD フォーラム学術講演会. 2016.5.26. 岐阜.
- 178) 岩下裕明, 山田哲弘, 佐々木大樹, 勝俣雅夫, 宮村美幸, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 長村愛作, 中村健太郎, 吉松安嗣, 津田裕紀子, 竹内健, 高田伸夫, 鈴木康夫. 若年潰瘍性大腸炎症例における apheresis 治療の検討. 第 102 回. 本消化器病学会. 2016.4.1. 東京.
- 179) 永易 洋子, 藤田太輔, 大門篤史, 太田沙緒里, 布出実紗, 岡本敦子, 多賀紗也香, 佐野匠, 鈴木裕介, 寺井義人, 大道正英, 中村英里, 平松ゆり, 木村侑子, 吉田周造, 槇野茂樹. SLE 合併妊娠のステロイド量による周産期予後の検討. 第 2 回日本母性内科学会総会・学術集会. 2018.6.24. 東京.
- 180) 藤田太輔. 関節リウマチと妊娠 妊娠前・妊娠中・産褥の管理について. 中之島関節リウマチフォーラム. 2016.8.6. 大阪
- 181) 大門 篤史, 藤田太輔, 永易 洋, 岡本 敦子, 佐野 匠, 神吉 一良, 鈴木 裕介, 中村 英里, 平松 ゆり, 木村 侑子, 吉田 周造, 槇野 茂樹, 寺井 義人, 大道 正英. 当院における関節リウマチ合併妊娠の検討. 第 1 回日本母性内科学会 総会・学術集会. 2016.7.30. 東京.
- 182) 永易 洋子, 藤田太輔, 大門篤史, 岡本 敦子, 佐野 匠, 神吉一良, 鈴木 裕介, 中村英里, 平松ゆり, 木村侑子, 吉田周造, 槇野茂樹, 寺井義人, 大道正英. 当院における SLE 合併妊娠の周産期予後の検討. 第 1 回日本母性内科学会 総会・学術集会. 2016.7.30. 東京.
- 183) 野中由希子, 嶽崎智子, 赤池治美, 久保田知洋, 山崎雄一, 伊藤琢磨, 根路銘安仁, 今中

- 啓之, 武井修治. 自己免疫疾患における妊娠・性感染症についての教育の意義. 第 27 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2017.10.6-8, 京都
- 184) 加藤嘉一, 久保田知洋, 伊藤琢磨, 山崎雄一, 野中由紀子, 嶽崎智子, 今中啓之, 武井修治, 河野嘉文. 多関節型若年性特発関節炎患者の膠原病内科への移行における問題点. 第 55 回九州リウマチ学会, 2018.3.3-4, 沖縄
- 185) 野中由希子, 武井修治, 赤池治美, 嶽崎智子, 今中啓之, 久保田知洋, 山崎雄一, 根路銘安仁, 成人期移行直前の JIA の臨床像とその特性. 第 26 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2016.10.21-23, 千葉
- 186) 後藤美賀子, 八鍬奈穂, 中島 研, 三島就子, 金子佳代子, 三戸麻子, 荒田尚子, 村島温子. 妊娠と薬情報センターにおける相談外来の効果について. 第 114 回日本内科学会講演会, 2017.4.15 ~ 17, 東京.
- 187) 村島温子. リウマチ性疾患と妊娠 母性内科の立場から, 第 61 回リウマチ学会総会・学術集会, 2017.4.20 ~ 22, 福岡.
- 188) 後藤美賀子, 三島就子, 金子佳代子, 渡邊央美, 中島 研, 村島温子. 当院におけるタクロリムスの妊娠時曝露例の解析. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2017.4.20 ~ 22, 福岡.
- 189) 後藤美賀子, 金子佳代子, 村島温子. 全身性エリテマトーデスの治療と妊娠・授乳. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2017.4.20 ~ 4.22, 福岡.
- 190) 村島温子. 腎疾患患者の妊娠中の薬物療法. 第 60 回日本腎臓学会学術総会, 2017.5.26 ~ 28, 仙台.
- 191) 村島温子. リウマチと妊娠・出産. 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会 市民公開講座, 横浜, 2016.4.24 国内
- 192) 後藤美賀子, 中島 研, 八鍬奈穂, 金子佳代子, 三戸麻子, 荒田尚子, 村島温子. 妊娠と薬情報センターからみた内科慢性疾患症例の妊娠登録調査の必要性について. ポスター : 第 113 回日本内科学会総会・講演会, 2016.4.15. 東京.
- 193) 三戸麻子, 荒田尚子, 坂本なほ子, 橋本就子, 川崎麻紀, 金子佳代子, 佐藤志織, 後藤美賀子, 村島温子. 妊娠合併症を発症した女性の長期健康予後について. ポスター : 第 113 回日本内科学会総会・講演会, 2016.4.16. 東京.
- 194) 金子佳代子, 橋本就子, 後藤美賀子, 奥 健志, 渥美達也, 村島温子. 難治性抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の臨床像と、それらに対する大量免疫グロブリン療法の有効性についての検討. 口頭 : 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2016.4.22. 横浜.
- 195) 後藤美賀子, 橋本就子, 金子佳代子, 渡邊央美, 中島 研, 村島温子. 妊娠と薬情報センターにおける抗リウマチ薬相談業務及び妊娠登録調査研究. 口頭 : 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2016.4.22. 横浜.
- 196) 中島 研, 渡邊央美, 中曾根彩子, 石塚宣彦, 村島温子. トシリズマブ投与症例の妊娠結果の調査: 本邦 61 例のレトロスペクティブ解析. ポスター : 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2016.4.22. 横浜.
- 197) 橋本就子, 金子佳代子, 後藤美賀子, 村島温子. 原病の増悪や妊娠高血圧症候群を伴わずに生児を得た, SLE を背景として抗リン脂質抗体症候群関連腎症 (APSN) 合併妊娠の 2 症例. ポスター : 第 60 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2016.4.22. 横浜.
- 198) 金子佳代子, 須山文緒, 芝田 恵, 荒田尚子, 菊地範彦, 谷垣伸治, 左合治彦, 村島温子. 全身性エリテマトーデス合併妊娠における抗リン脂質抗体保有と抗リン脂質抗体症候群関連妊娠合併症に関する検討. ポスター : 日本産科婦人科学会第 68 回学術講演会, 2016.4.24. 東京.
- 199) 妊娠・授乳中の薬剤の使い方. 口頭 [シンポジウム] 村島温子. 第 40 回小児皮膚科学会学術大会, 広島, 2016.7.2 国内
- 200) 村島温子. 妊娠中や授乳時の母体への薬物投与の注意点. 口頭 [シンポジウム]: 第 52 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2016.7.16. 富山.
- 201) 肥沼 幸, 上出泰山, 渡邊央美, 後藤美賀子, 三戸麻子, 和田友香, 村島温子. 妊娠と薬情報センターでの授乳と薬相談結果からの授乳指導の現状についての検討. ポスター : 第 52 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2016.7.17. 富山.
- 202) Oku K, Kanetsuka Y, Amengual O, Yasuda S,

- leko M, Atsumi T: New subset for antiphospholipid antibodies for diagnosis of antiphospholipid syndrome The Scientific and Standardization Committee, International Society of Thrombosis and Haemostasis. 2017.7.8. Berlin, Germany.
- 203) Abe N, Oku K, Amengual O, Fujieda Y, Kato M, Bohgaki T, Yasuda S, Mori R, Morishita E, Suzuki-Inoue K, Atsumi T. Possible therapeutics for antiphospholipid antibody related thrombocytopenia: A systemic review and meta-analysis. The American College of Rheumatology/The Association of Rheumatology Health Professionals Annual Meeting, 2017.11.3-8. San Diego, USA.
- 204) Atsumi T. Cumulative Safety Data for Tocilizumab. 10th International Congress on Autoimmunity, 2016.4.6-11, Leipzig Convention center ,Leipzig, Germany.
- 205) Atsumi T and Oku K. Complement and thrombosis in the antiphospholipid syndrome. 10th International Congress on Autoimmunity, 2016.4.6-11, Leipzig Convention center ,Leipzig, Germany.
- 206) Atsumi T. Phosphatidylserine-dependent antiprothrombin antibody testing for the diagnosis of antiphospholipid syndrome. 15th International Congress on Antiphospholipid Antibodies, Girne, 2016.9.21-24, ELEXUS Hotel,Turkish Republic of Northern Cyprus.
- 207) Atsumi T and Oku K. Antiphospholipid Scoring. 15th International Congress on Antiphospholipid Antibodies, Girne, ELEXUS Hotel,Turkish Republic of Northern Cyprus, 2016.9.21-24, ELEXUS Hotel,Turkish Republic of Northern Cyprus.
- 208) Atsumi T and Oku K. How to interpret the antiphospholipid profile. The 9th Congress of the Asia-Pacific Society on Thrombosis and Haemostasis, 2016.10.7-10, Taipei International Convention center, Taipei,Taiwan.
- 209) Atsumi T. Recent advances in antiphospholipid antibodies. The 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity, 2016.10.13-14, Kyoto kokusai kaikan, Kyoto, Japan.
- 210) Oku K, Kanetsuka Y, Amengual O, Ohmura K, Kato M, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Norman GL, deLaat B, Atsumi T. A patient-derived autoimmune IgG type monoclonal anticardiolipin antibody that binds to beta 2 glycoprotein domain I but not to total beta 2 glycoprotein I molecule. The 15th International Congress on Antiphospholipid Antibodies, Girne, 2016.9.21-24, ELEXUS Hotel, Turkish Republic of Northern Cyprus.
- 211) Oku K, Kanetsuka Y, Amengual O, Ohmura K, Kato M, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Atsumi T. A novel patient-derived IgG monoclonal anticardiolipin antibody that specifically binds to domain I of beta 2 glycoprotein. The 9th Congress of the Asia-Pacific Society on Thrombosis and Hemostasis, 2016.10.7-10 ,Taipei International Convention center, Taipei,Taiwan.
- 212) 杉山隆夫, 杉本豊彦, 末石 眞. エタネルセプトで関節リウマチを治療中の母親を持つ児に生ワクチン接種は可能か？ 第 61 回日本リウマチ学会学術集会. 2017.4.20-22. 福岡.

#### H.知的財産権の出願・登録状況

なし